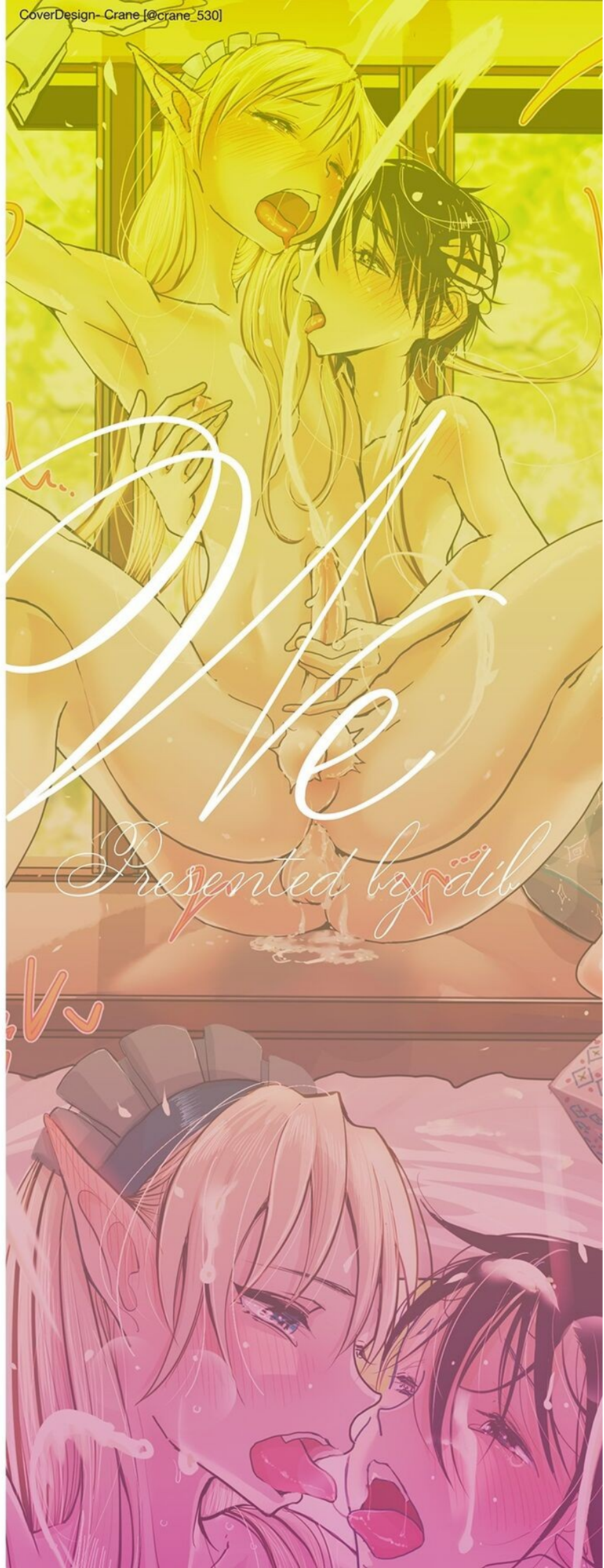


デニビ

僕らは♡







僕は
は...♡

目次

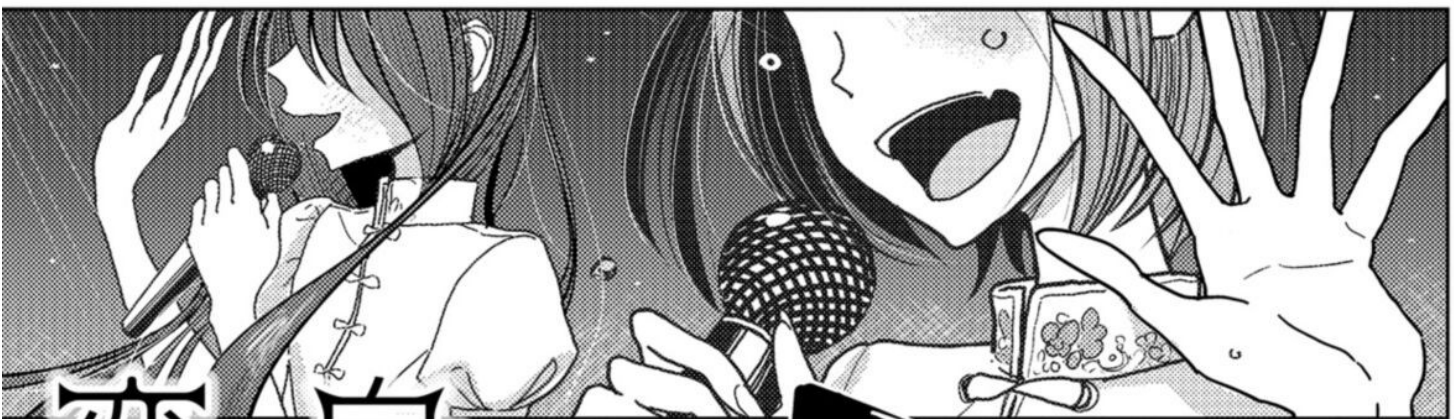
Contents

- 005.....変身
021.....忠犬
037.....火華
053.....転職
069.....時間操作デバイスのかたち
087.....ラクロス沼
103.....甘雨の社
121.....エルフ中毒
137.....従者のおつとめ
157.....従者のおつとめ・裏
173.....楽園学園
185.....華道教室垂蜜流

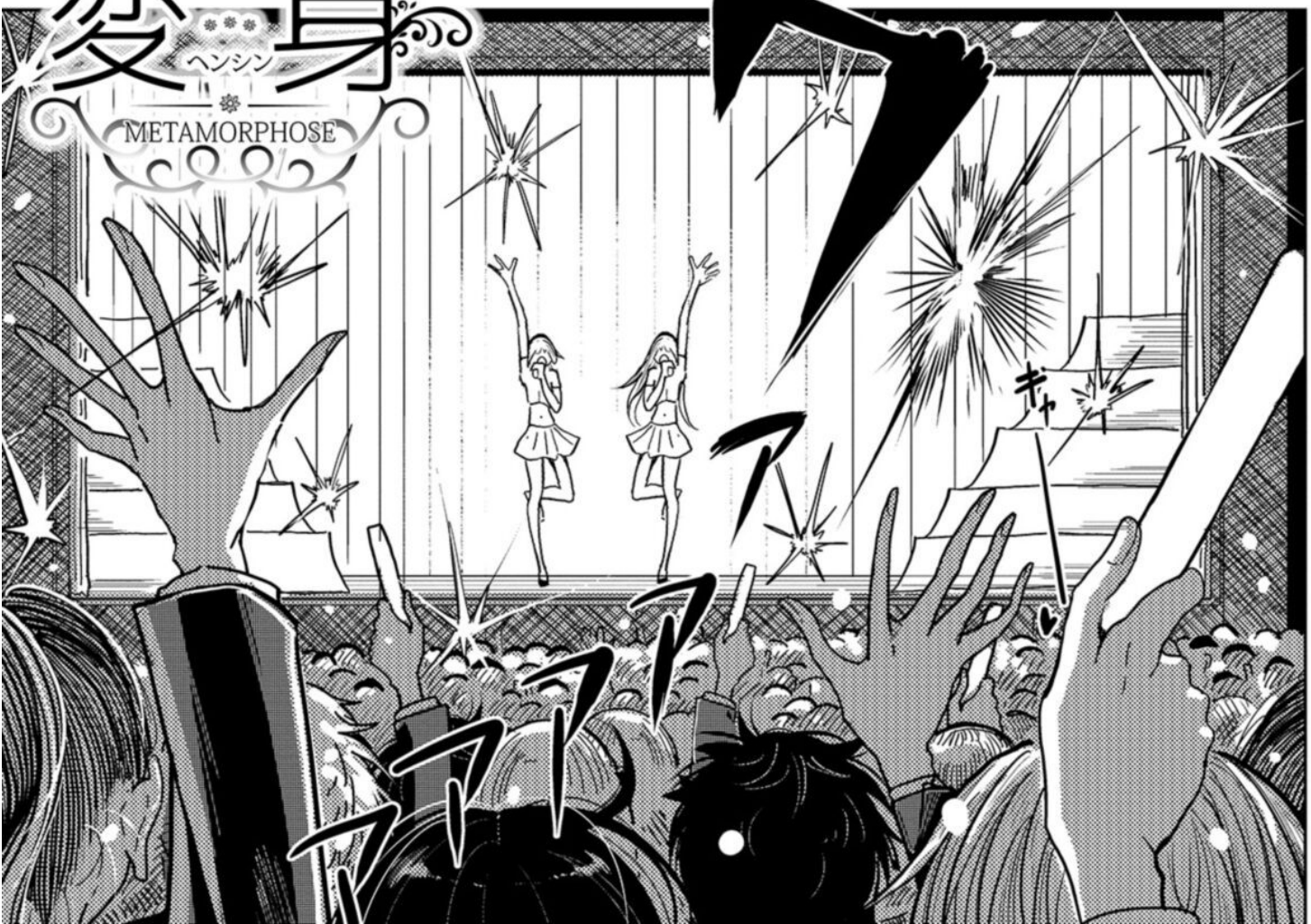
201.....従者のおつとめ おまけ
(描き下ろし)



現役南校生アイドルユニット
「ミラーミラー」凱旋公演
体育館 12日 14時スタート



変身
ヘンシン
METAMORPHOSE



後日

ダンス練習室

マネジャー
希望？

はいっ

あの学園祭の時の
ステージを見て……
感動して！

僕も
あんな素敵なことに
関わればと思って

ふふ……
ありがとう

君
新入生？

はい！
1年B組
かがみしんじ
加賀美信司と
います

真国立劇場
アンパレエ



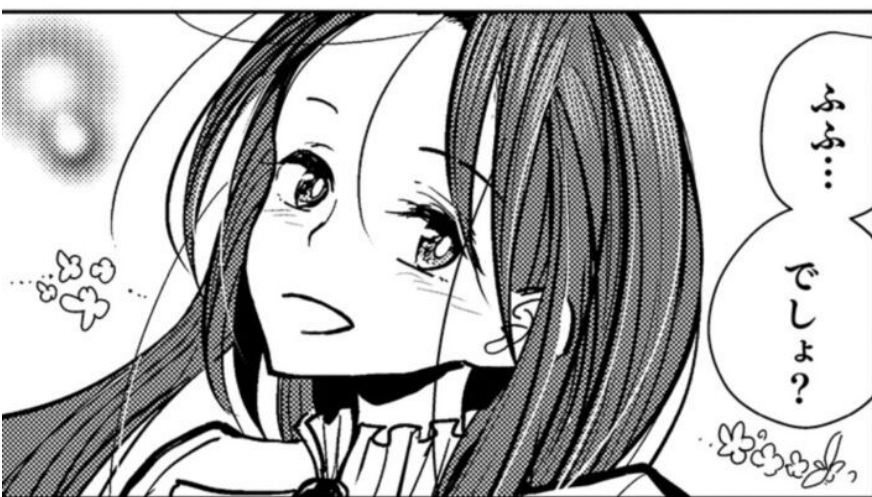
うん

新しい衣装
ですか？

あの
それ



どう
思います？



ふふ…

でしょ？



すっごく

すっごく
可愛いです！



？

この衣装…
もう一着
あるんだけど……

ねえ
加賀美くん



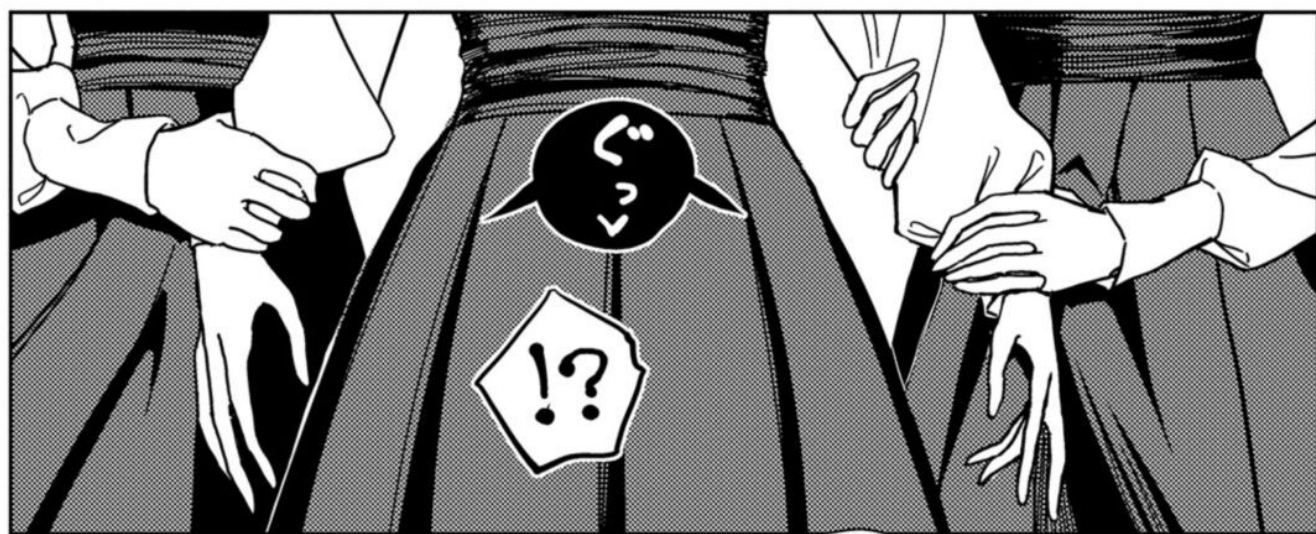
いや僕は
アイドルになりたい
わけじゃなく
裏方として……!

ていうか
その前に

僕
男ですよ!

……ああ……

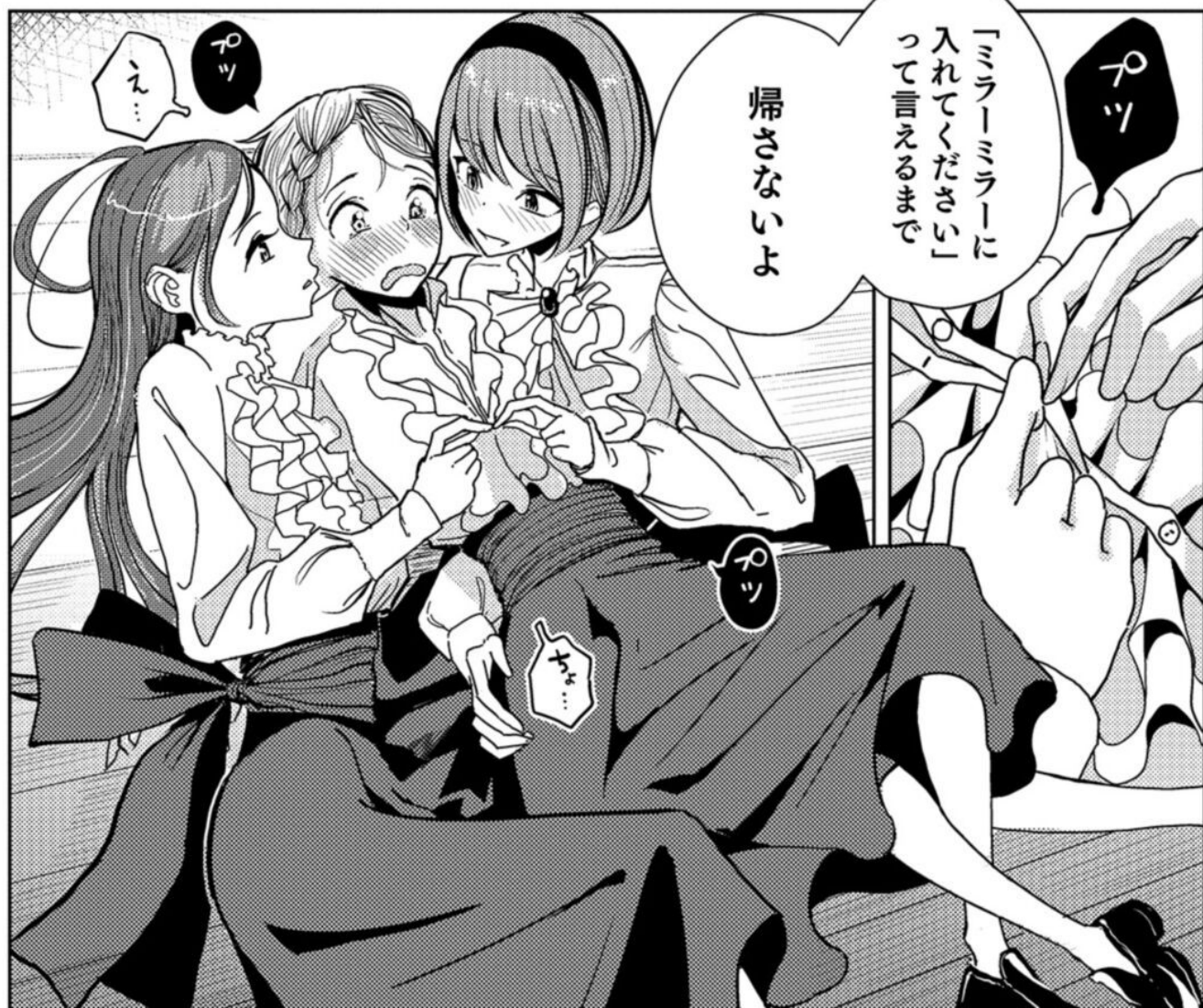
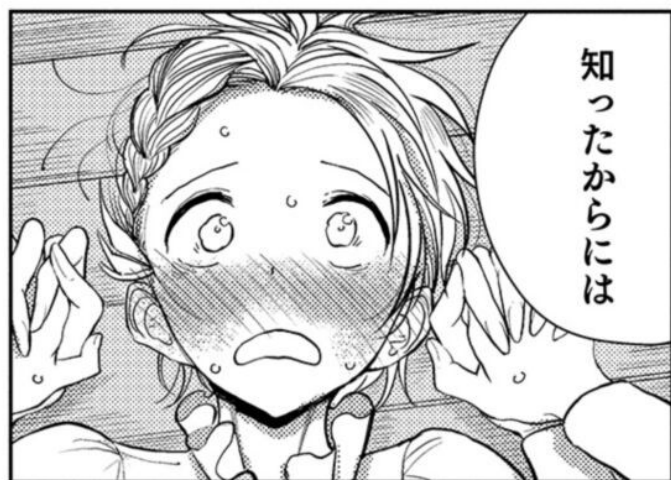
そんなの
全然大丈夫

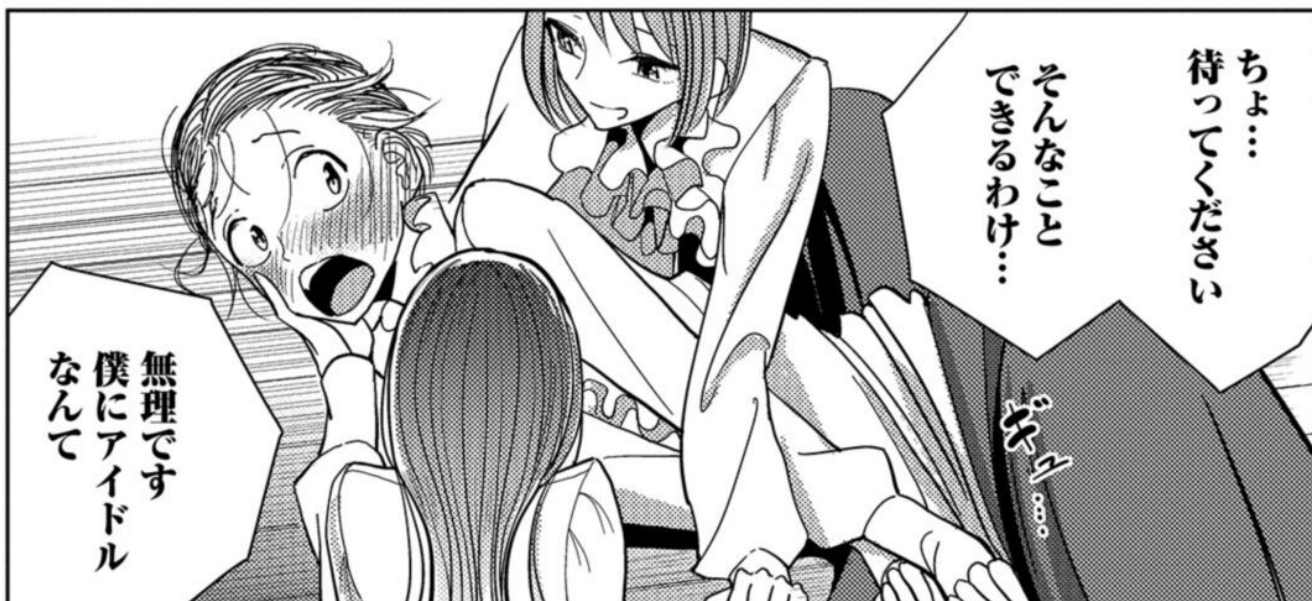


僕たちも

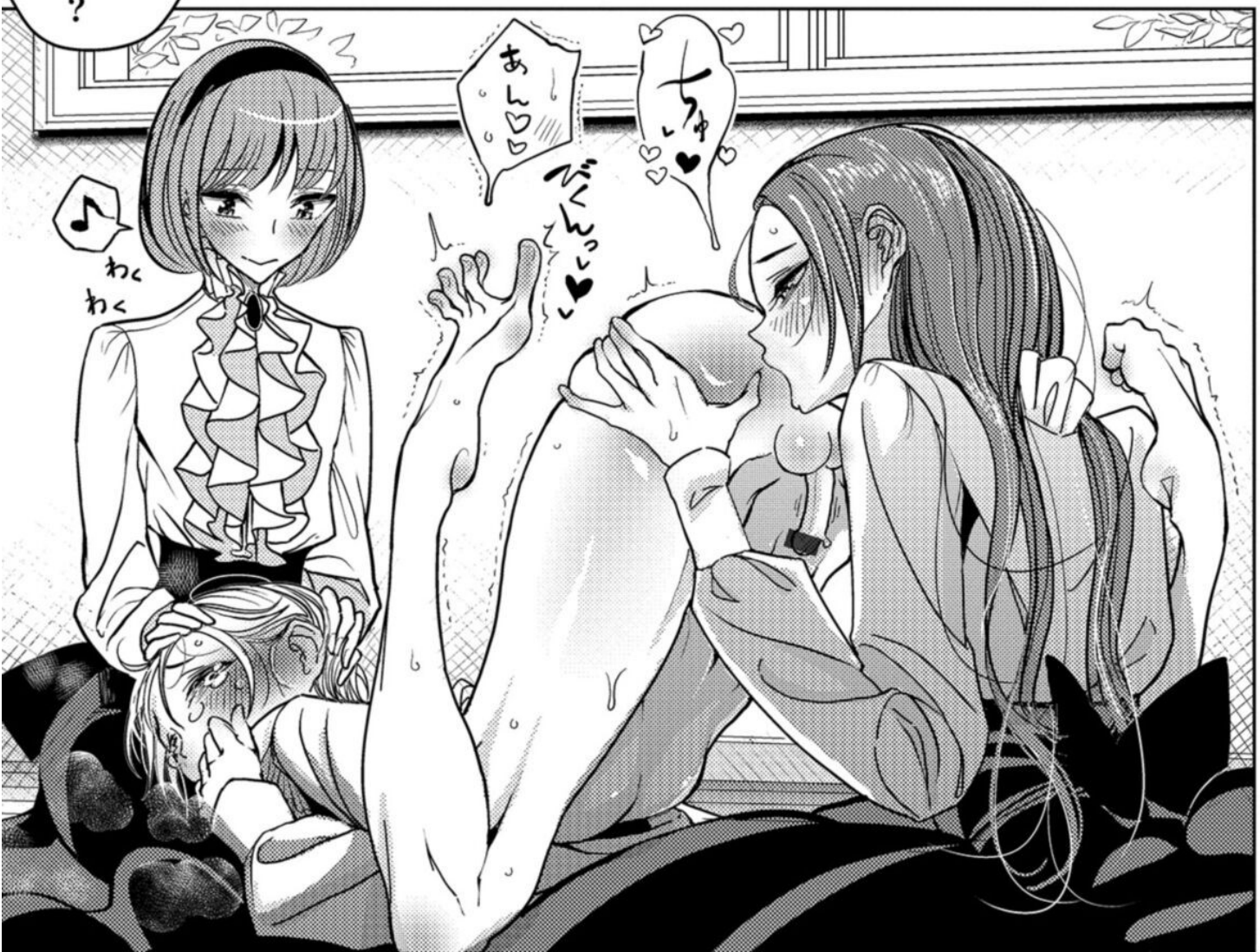
そうですから











ミラーミラー
加入……

おめでとう♡

ああ…駄目…
駄目だよ
加賀美くん…

それは…
男の子が出している
声じゃないよ…

そんな声で
歌ったら…

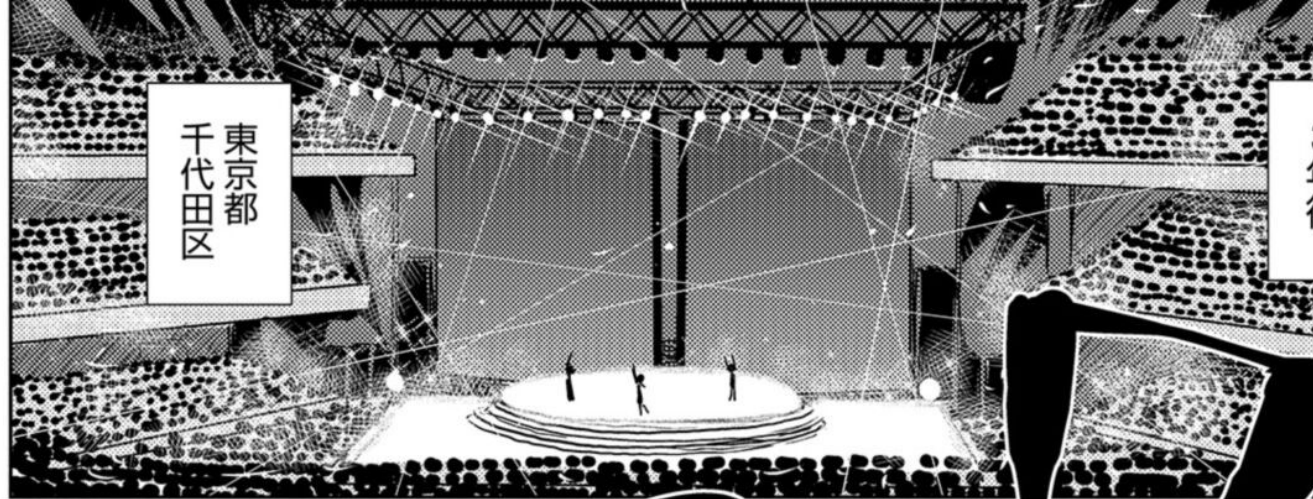
お客さんみんな
発情しちゃうよ…





3年後

東京都
千代田区



日本武道館



■END■



更衣室

いい

うん

いや
アホだろこれ…

応援団で普通
学ランだろ…

学ラン暑いから
夏服はこうして
もらったんだよ

ワレズだよ

学校公認なの
これ……

校長先生
ノリノリ
だったよ

エロオヤジ
かよ校長…

でも狗神高校は
可愛いでしょ？

ちゅうげん
忠犬



もう着たから
いいかな？

帰るぞ

ちかづ
けんち



……
でも確かにちよつと
可愛いなコイツ……



……いや
なに
考えてんだ
俺

……
これ以上は
なんか
ヤバイ気が
してきた……



尻尾？

動いてる……？

うん

狗神高校だから



え？
どうなってんの
これ

フリ
フリ

どうやって
ついてるの？



これ？
簡単だよ

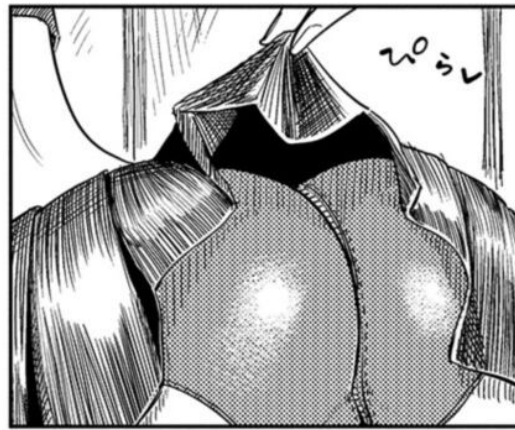


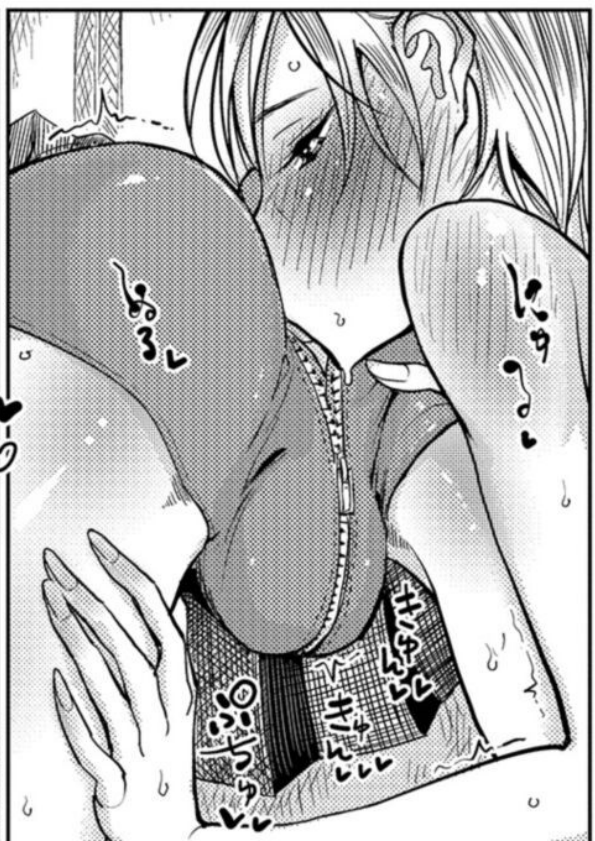
まだこれ

大事な
「しっぽ」
つけてないよ







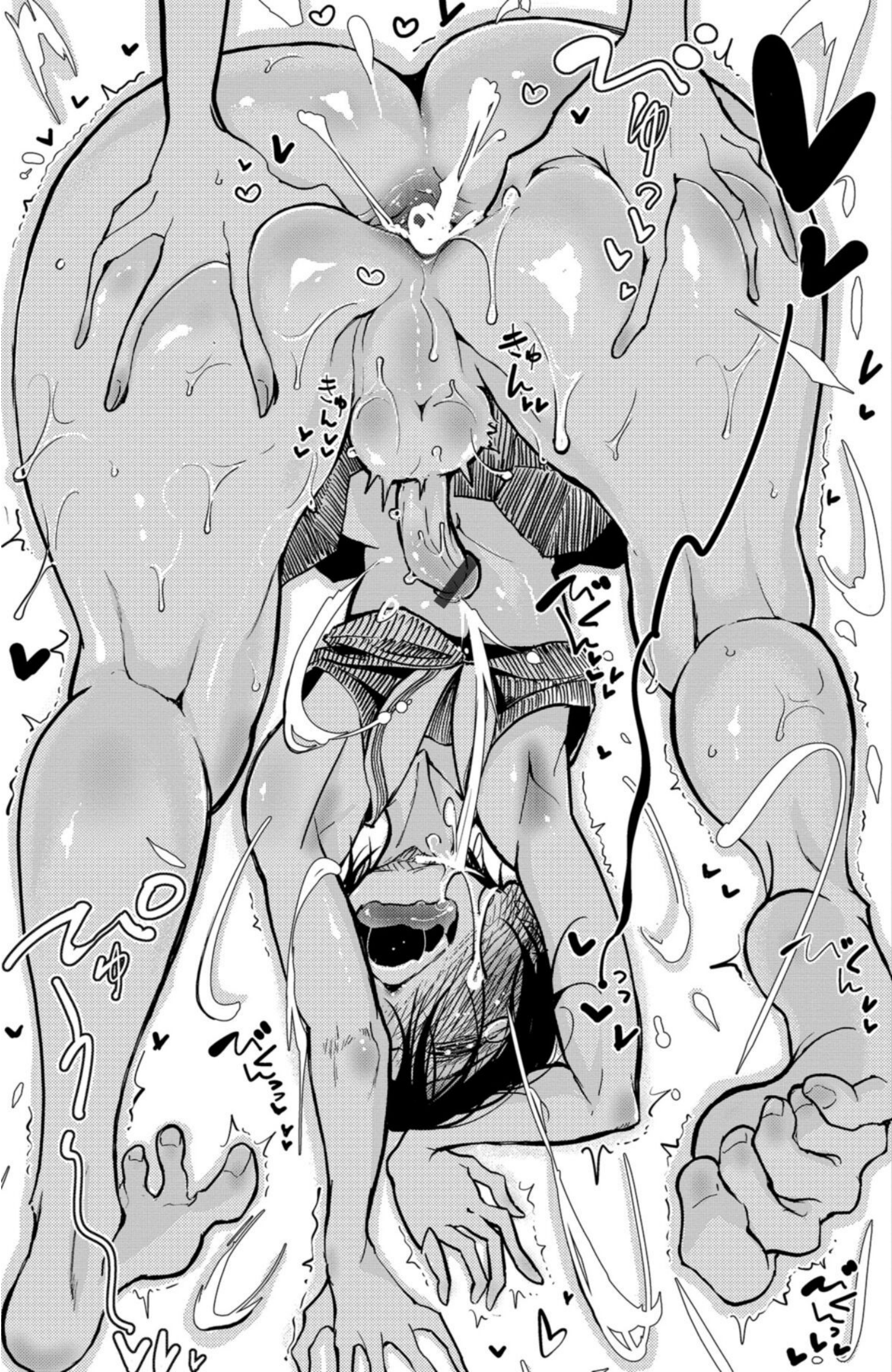












ひと月後
夏――

甲子園



さあ
こちらは一塁
狗神高校側の
応援席です



非常に大勢の
チアリーディング姿の
生徒が見えます

実に
華やかですね



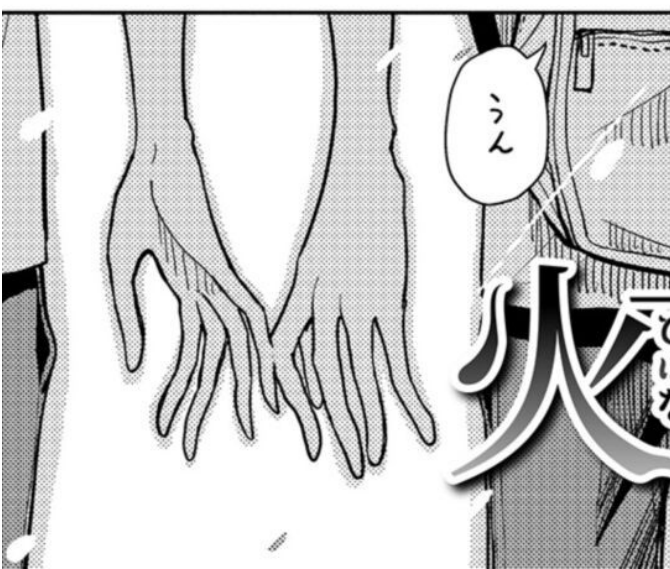
ええ
でも……



狗神は
男子校だったと
思うんですがね……



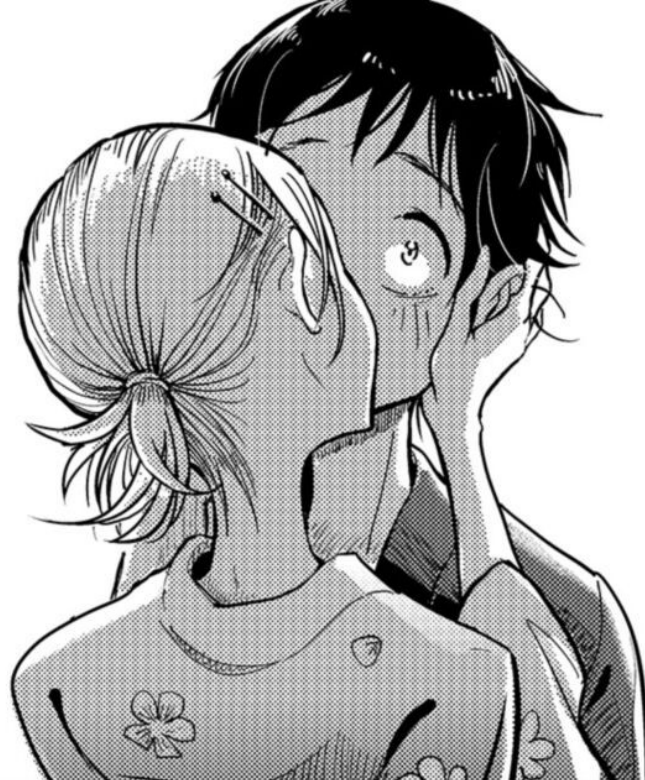
END



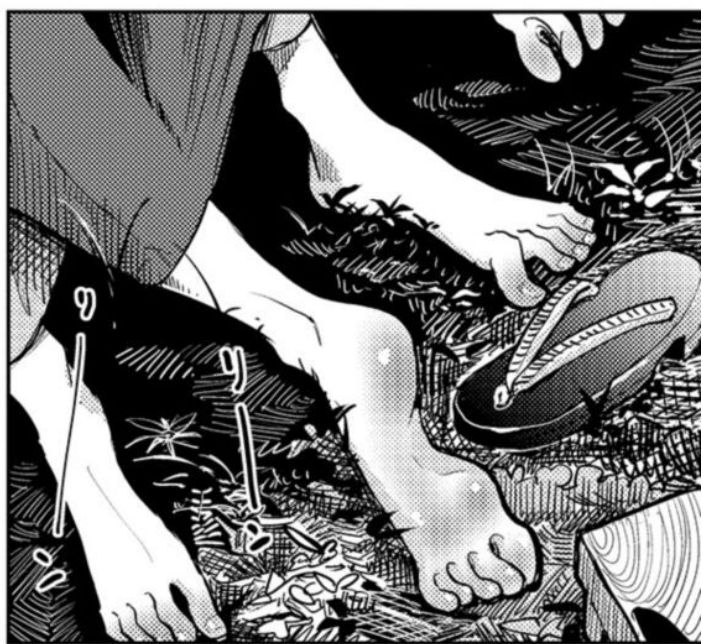
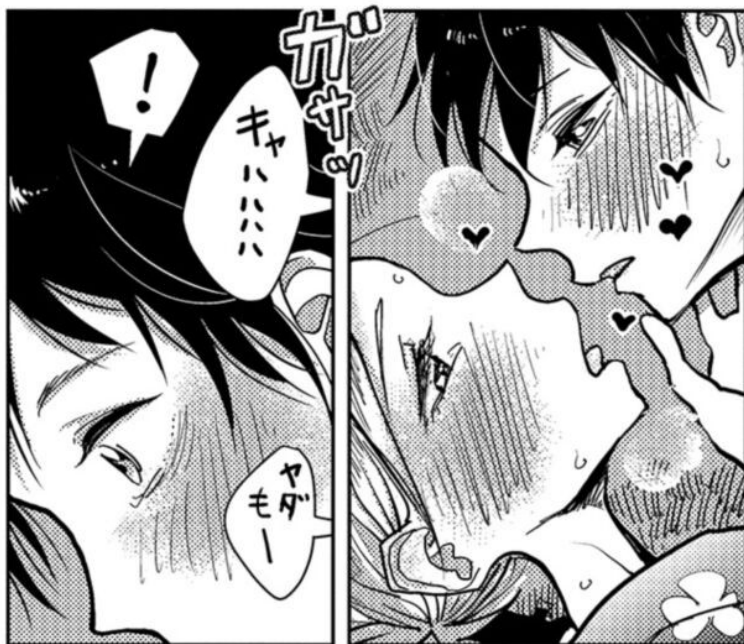
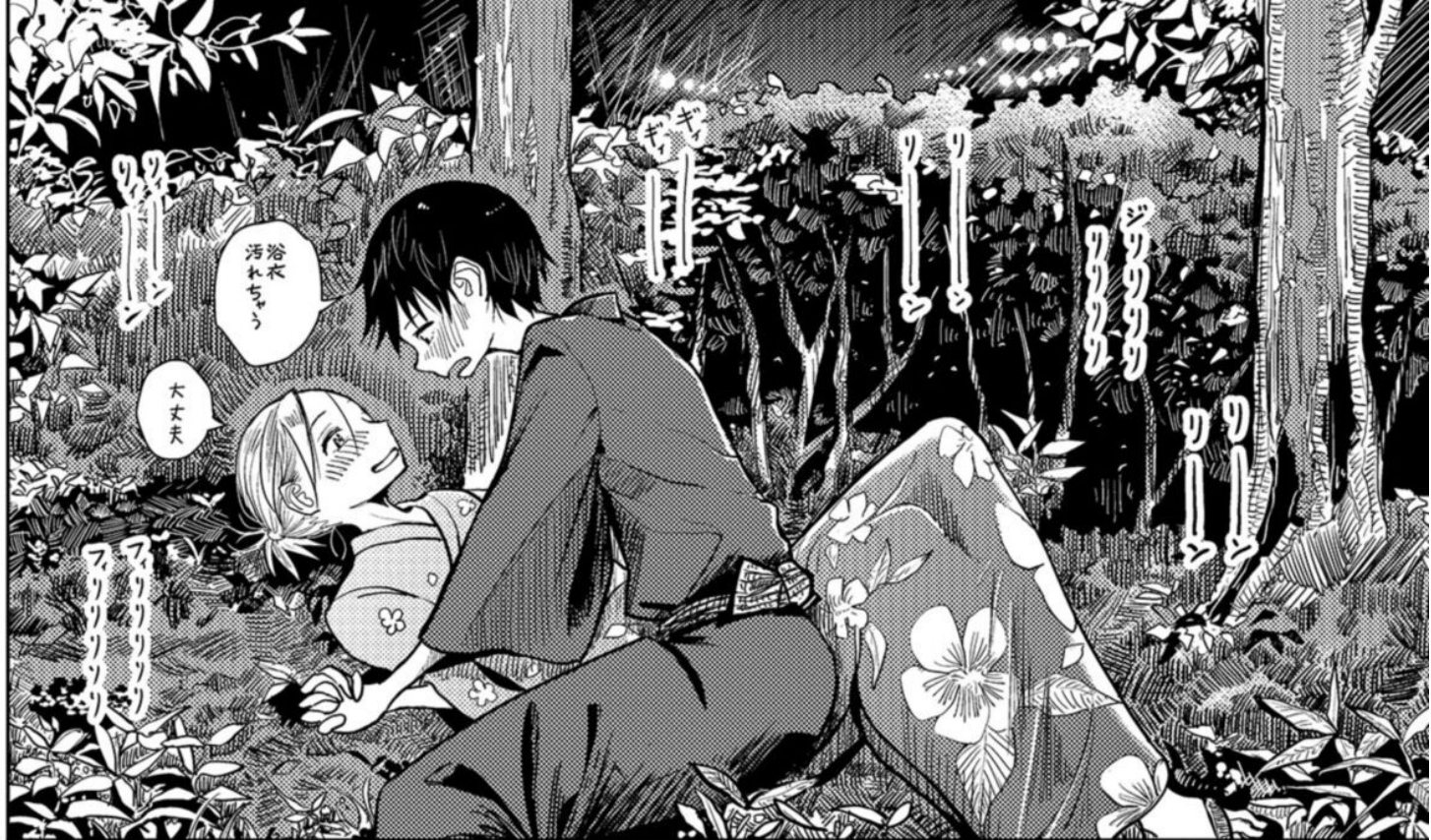
火華















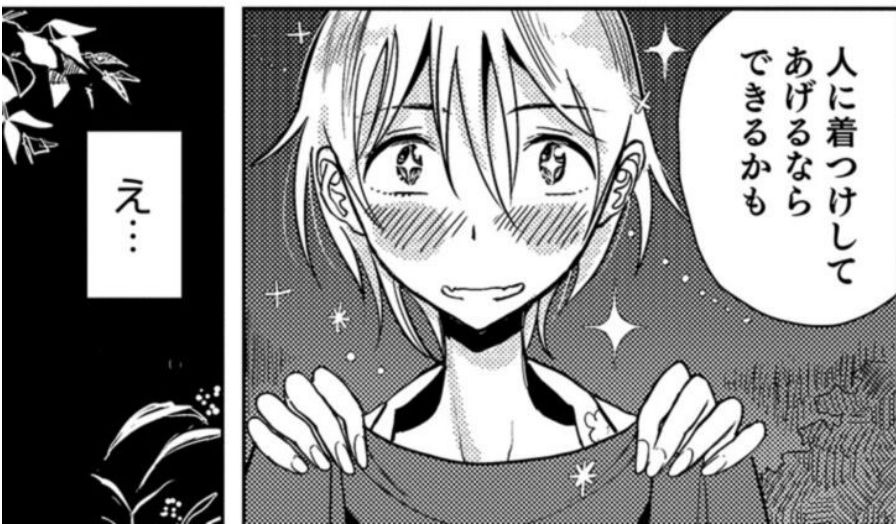
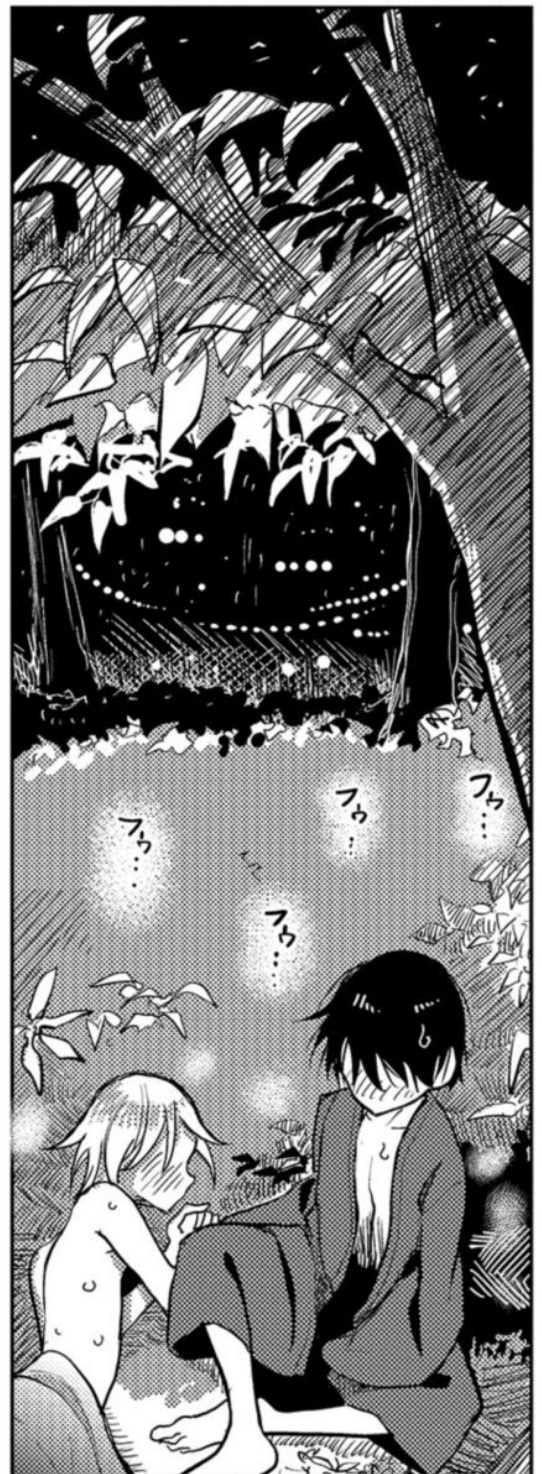
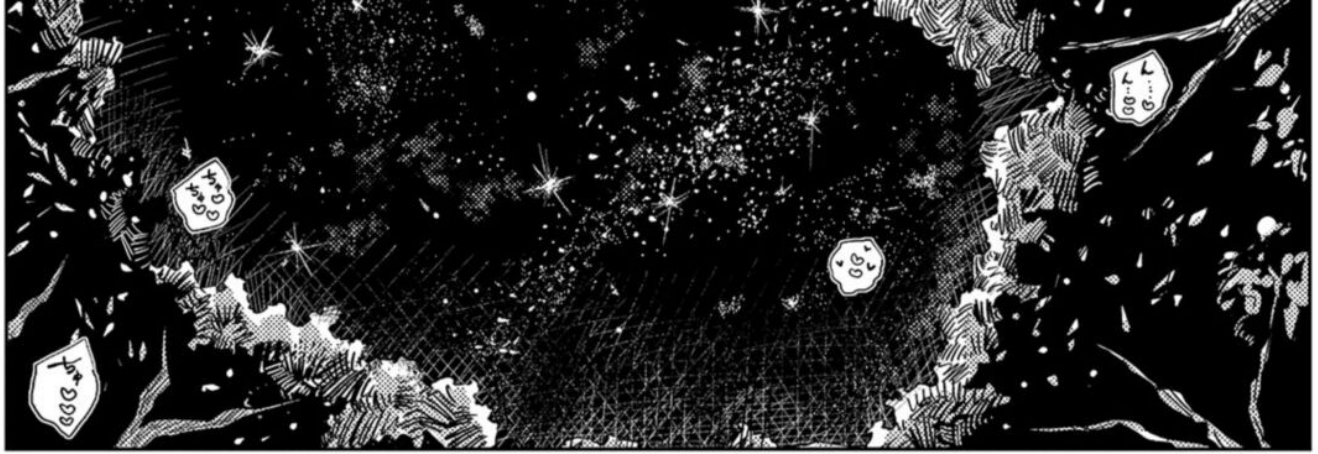
もういれる





声
でかいって







あ
それから
今から

ほんとに
女の子に
してあげようか？



...



無理無理
無理無理

やっぱ
ダメだってこれ

ドン

ドン

ドン

ドン

カラ
コロ

大丈夫大丈夫
ボーイッシュで
かわいいよ

ドン



ヒト型の魔物：

人間の分際で
素晴らしい
太刀筋です

その力我が魔王軍のために
振るうつもりはありませんか？

今降伏すれば

我が軍の
剣術指南役として
推挙させて
いただきますよ？

ふざけるな！

ハズレです

!?







ではさっそく
拷問させて
いただきます

申し遅れました
私

魔王軍
東方辺境
統合軍所属

上級催眠術師の
ナルと申します



ちょっと
興奮している
だけですから♡

さあ…では
始めましょう

簡単には
堕ちないで
くださいね？



今から
快樂地獄に
墮とされる
勇者様の



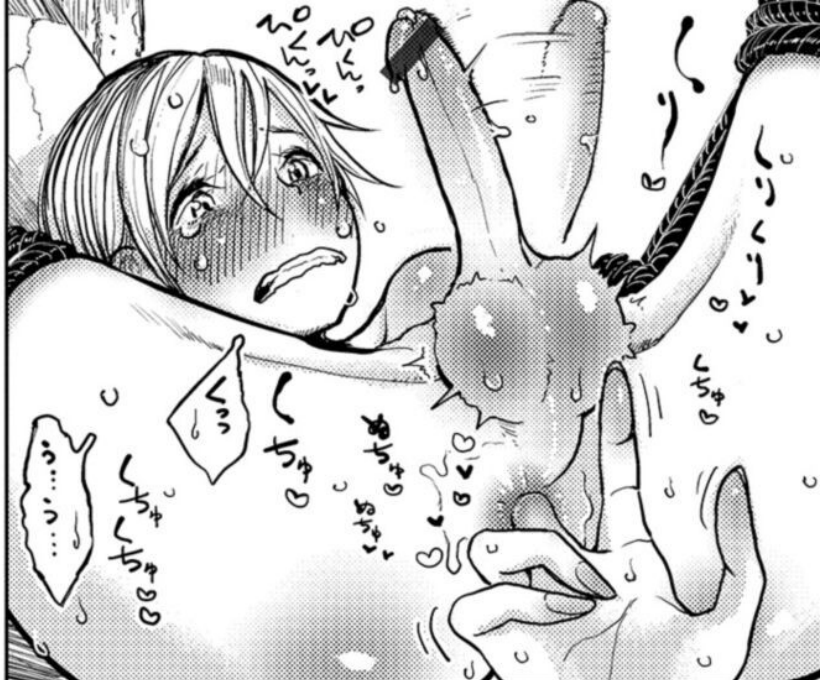
甘く切なく
鳴き叫んで許しを請う
可愛い痴態を拝見
するのが楽しみです



あ♡
僕の性器は
気にしないで
ください







どうされました
勇者様？

もしかして…
おしりがキモチ
いいんですか？

今
女の子みたいな
声が漏れちゃい
ましたけど？

隠しても
無駄ですよ？

おしりの中
くちゅくちゅ
かき回されるのに
あわせて涙と
ヨダレがこんなに
溢れて

感じての
バレバレです♡

おしりが弱点
だったんですね

こうなっちゃったら
もうおしまいでしょ
勇者様……

可愛そう♡



無駄ですよ…

どんなに鳴いても
どんなに気持ちよくても
術を解かない限り
絶対に射精できません

前立腺とおちんちんを
くすぐられ続ける
切なく甘い快楽が
体内でどこまでも濃縮
されていくだけです

ほらほら♡早く
快感をおちんちんから
吐き出さなきゃ脳みそ
とろけちゃいますよ？

射精が始まらないってことは
こういうもどかしい快楽が
少しずつ少しずつ降り積もって
無限に気持ちよくなっていくって
ことですからね？



でも今 射精できたらきつと
腰が抜けるくらい
気持ちいいでしょうね…

前立腺 そつとくすぐられ続けて
元氣いっぱいになった精子たちに
むずむず疼きつばなしの尿道を
熱く撫で上げられながら精液が
ピュ♡って何度も駆け抜けていく
絶望的に気持ちいい至福の時間……

その快感のためだけに
残りの人生捧げたくなる
くらい気持ちいいですよ？

ほら
ほら♡



この術を解き…
射精する方法は
一つだけ

術者の性器…



しゃせい
させてください♡
まおうぐんに
はいますから♡

おちんちんの術を解いて…
射精させてください♡



つまり僕の
おちんちんが解除キーに
なっていますから……

このキーで被術者の
前立腺を刺激し

強制的に
精液を絞り出す
ことです



それとも永遠に
射精できないまま

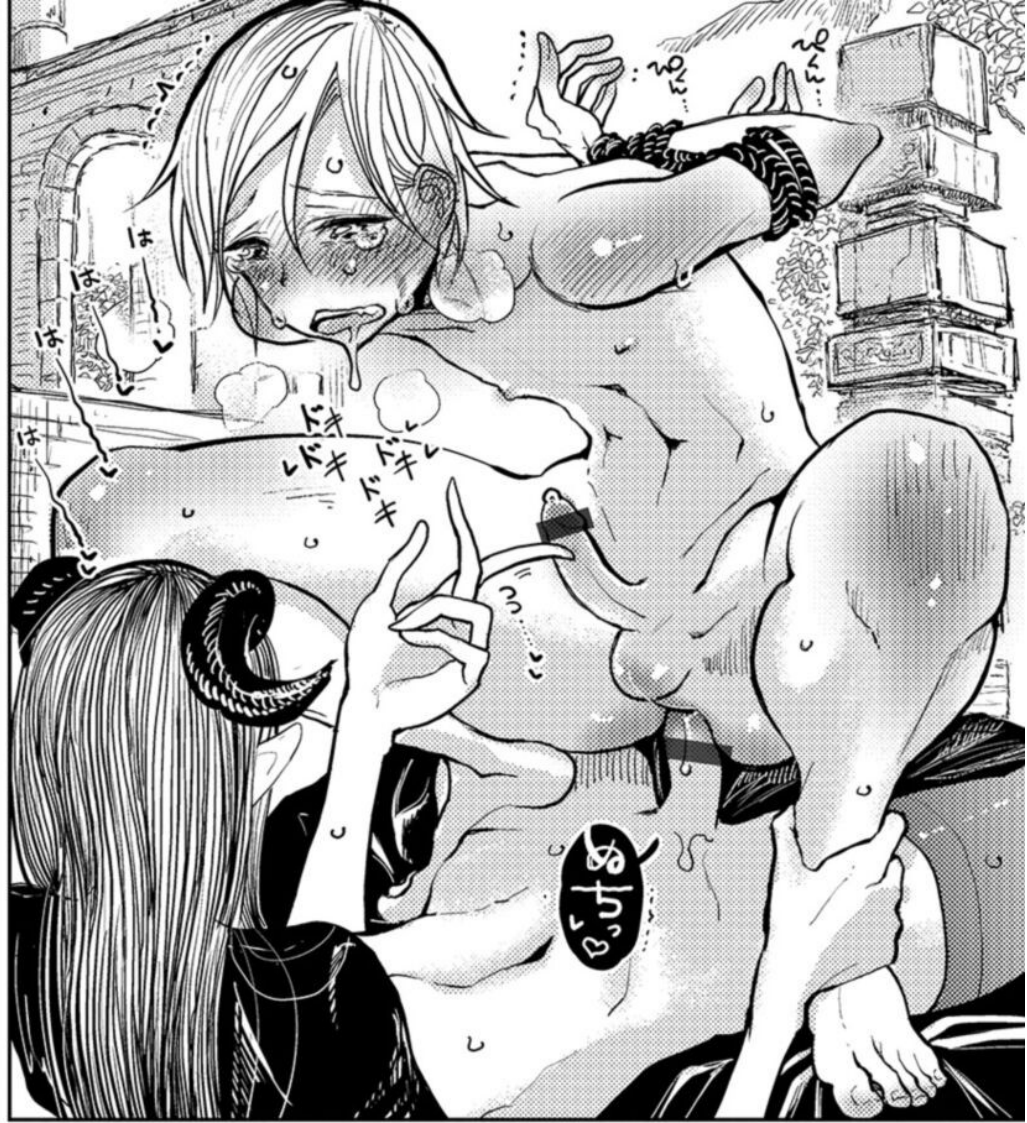
いつまでも
高まり続けていく
快楽に

責め苛まれて
身悶えしていい
ですか？



さあ勇者様……
どうされますか？

今すぐ魔王軍に入って
おしりを犯されながら
気持ちよく射精しますか？





さあ勇者様？
これで術が解けて
射精できるはずですよ？



念願の射精の快楽
たあっぷり味わって
くださいね？



いいですよ？
射精してください？

魔王様への白旗を
おちんちんから
吹き上げながら



後日

魔王軍
東門前線基地

同
演習場

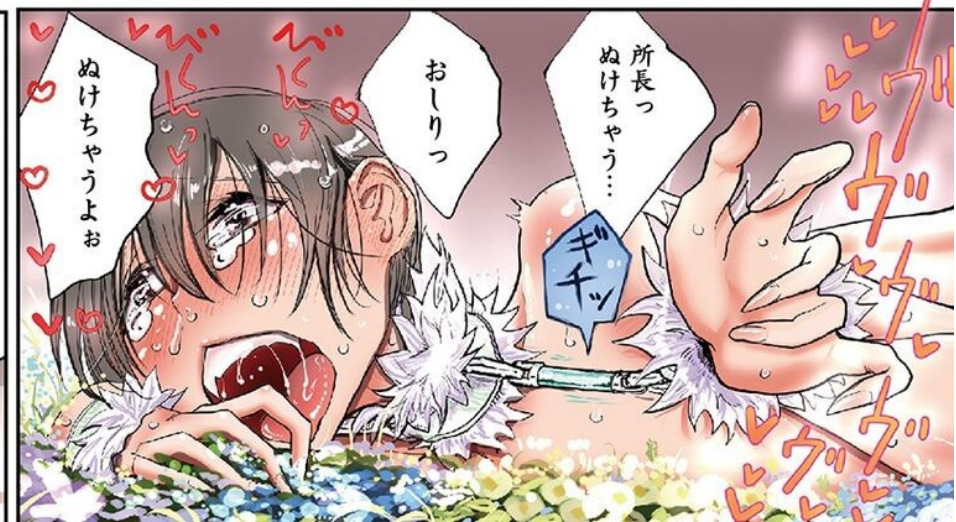
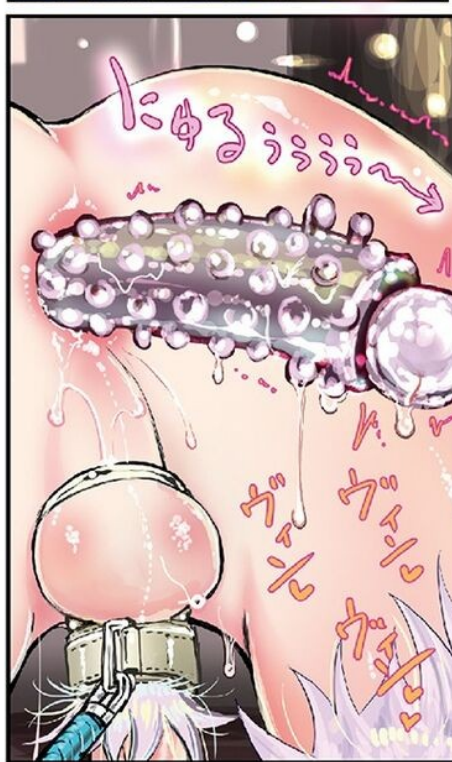
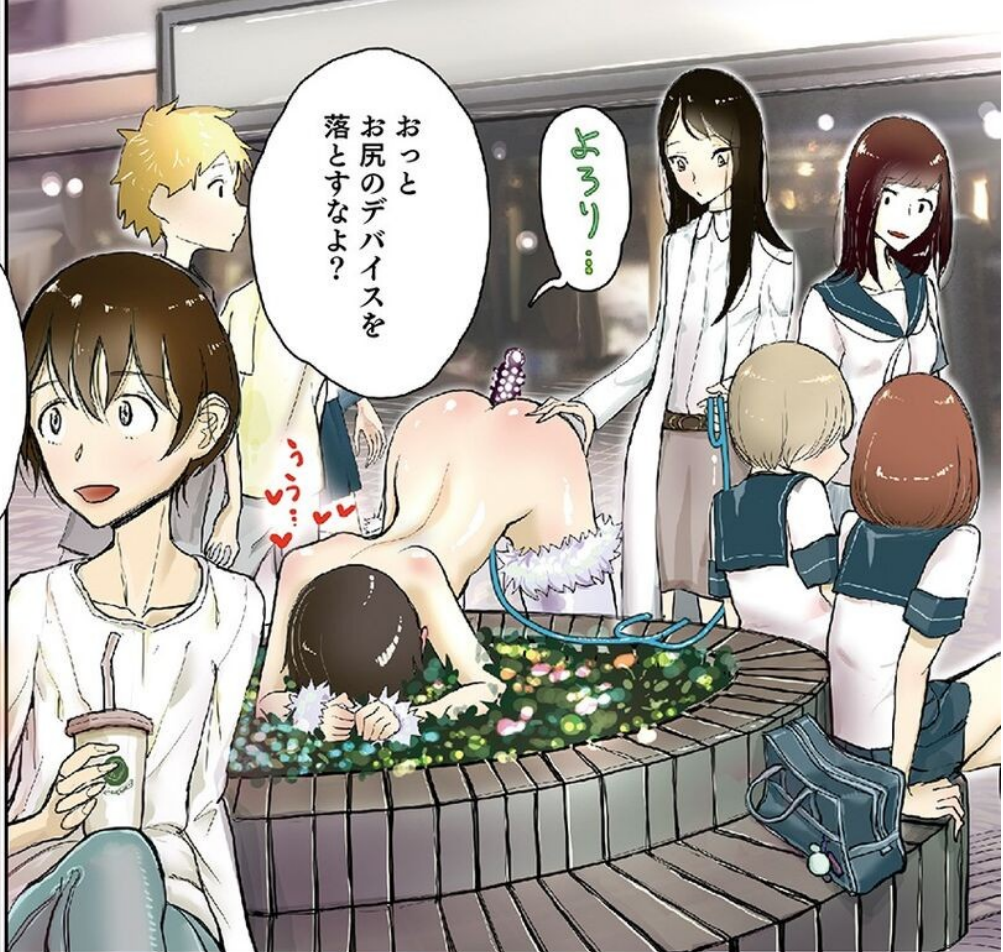
うわ
すごい♡

元勇者様
お勤めご苦労様です

やはり僕の
思った通り

兵士の
剣術指南役に
ぴったりの
人材でしたね

■END■





デバイスの自重で
入れ直すのか

おー
なるほど賢いな



もう少し時間停止の
データを集めさせてくれ

んー…
そうしてやりたいが…



しょ…
所長たすけて♡
もうゆるひて
ください♡

二時間前

都内某研究所

できたぞ早乙女くん！
時間操作デバイスだ！

これで時間が
操れるぞ！

いやあの…

何を言うか

君はこの研究室が
できた経緯を
忘れたのかね

いえ…

じゃ言ってみろ

どう見てもパイプ
じゃないですか



『物理法則など気持ち次第』

その通り…
つまり簡単に言うると？

えー…
原子よりはるかに小さな
光子などの素粒子の挙動は
『人間の意識の昂り』に
影響を受けることが
実験で証明されています

素粒子を
観測する行為自体が
波動関数の収束に
影響を与えるからです

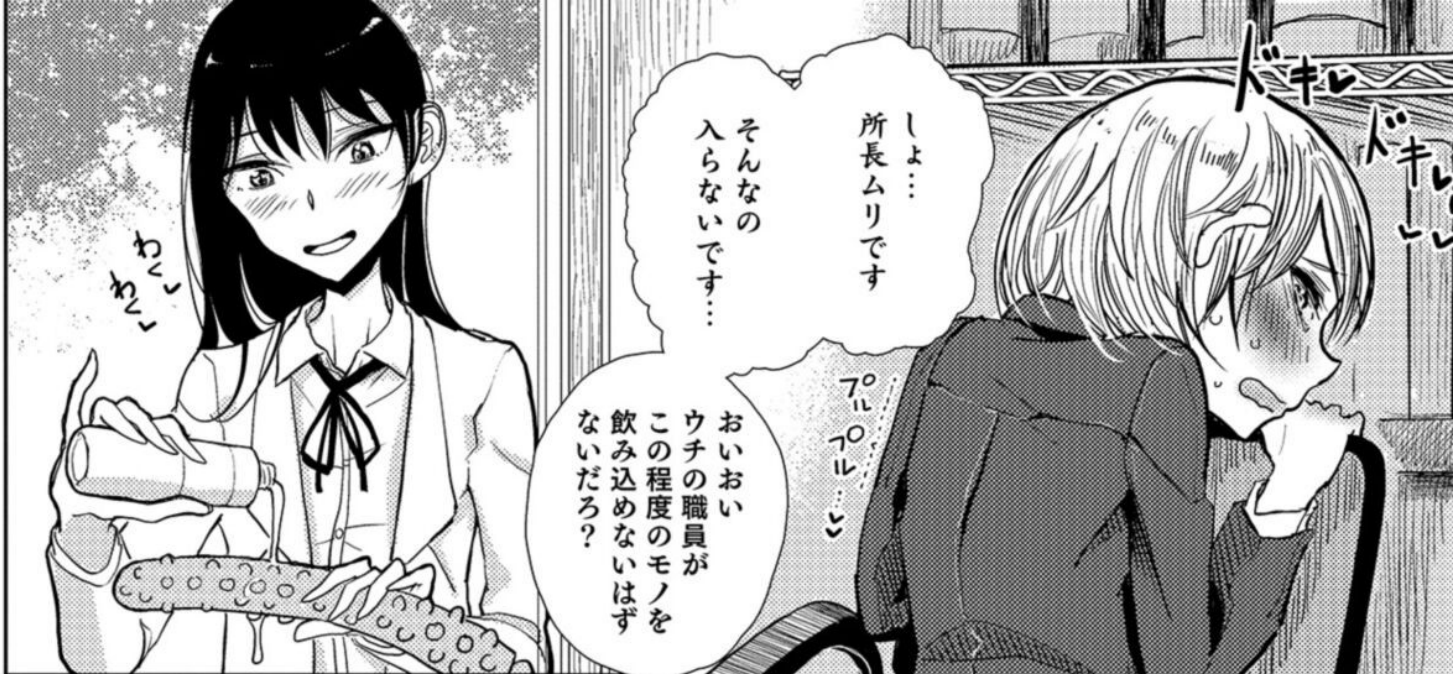


それが
ここ…

そこで
『男の娘を触媒とし
興奮したヒトの
意識エネルギーで
物理法則に干渉する』

これを目的に
設立された独立行政法人…







おお…成功だ
起動したぞ!



ん…
これは……





ん…なるほど
睾丸は時間が加速して
どんどん精子を
生産しているが

ペニスは時間が
停止しているせいで

どんなに
気持ち良く
なっても射精が
始まらないようだな

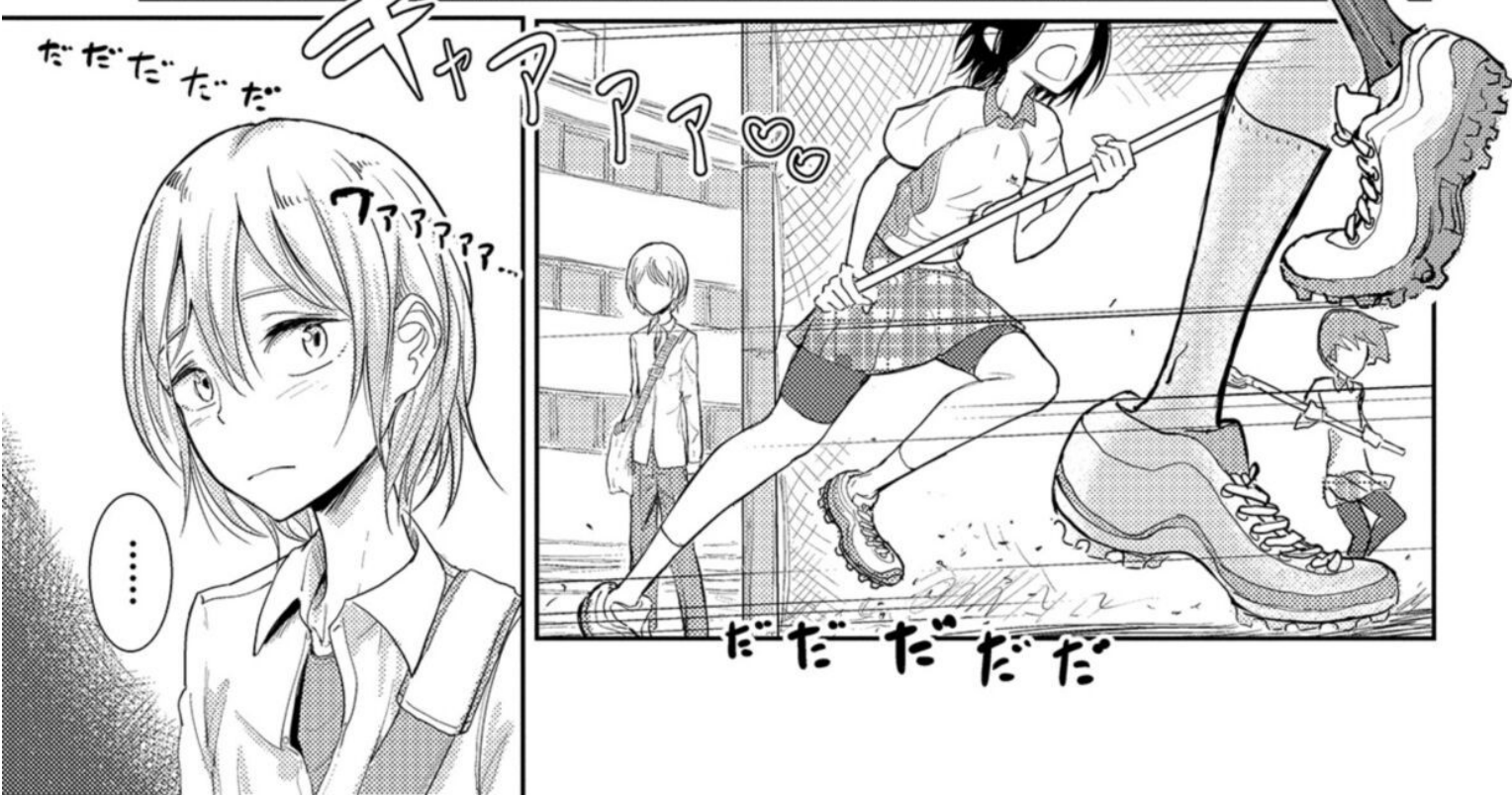
しかも
デバイス自体も
時間が止まって
いるようだ

全然
抜けない……

まだ時間操作範囲が
不安定だな











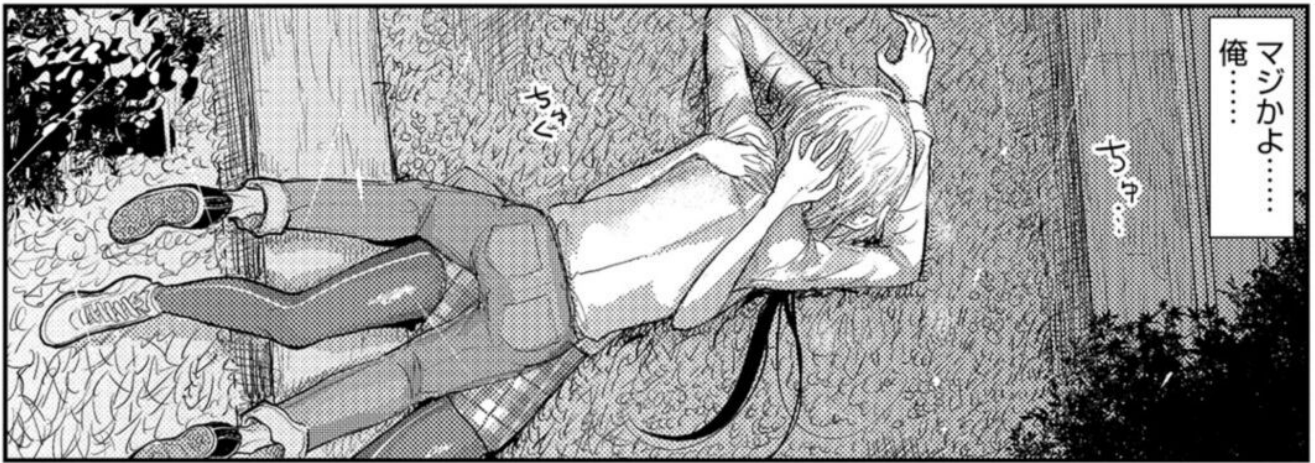
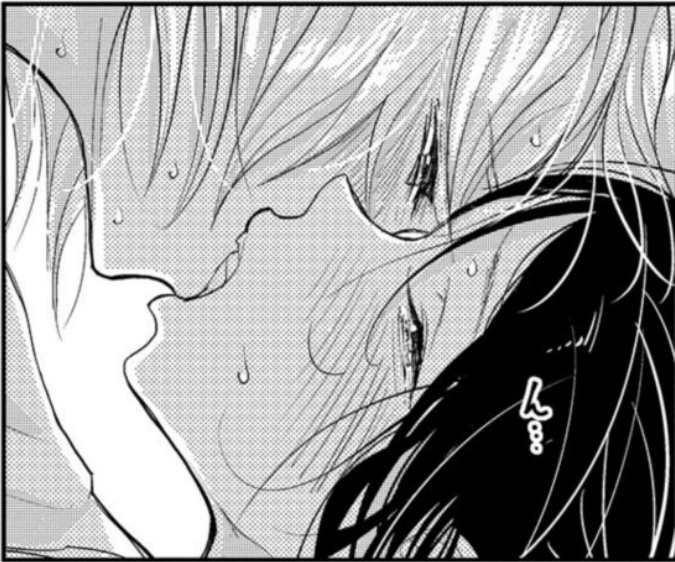


えこれもう完全に
そういう流れだよな...

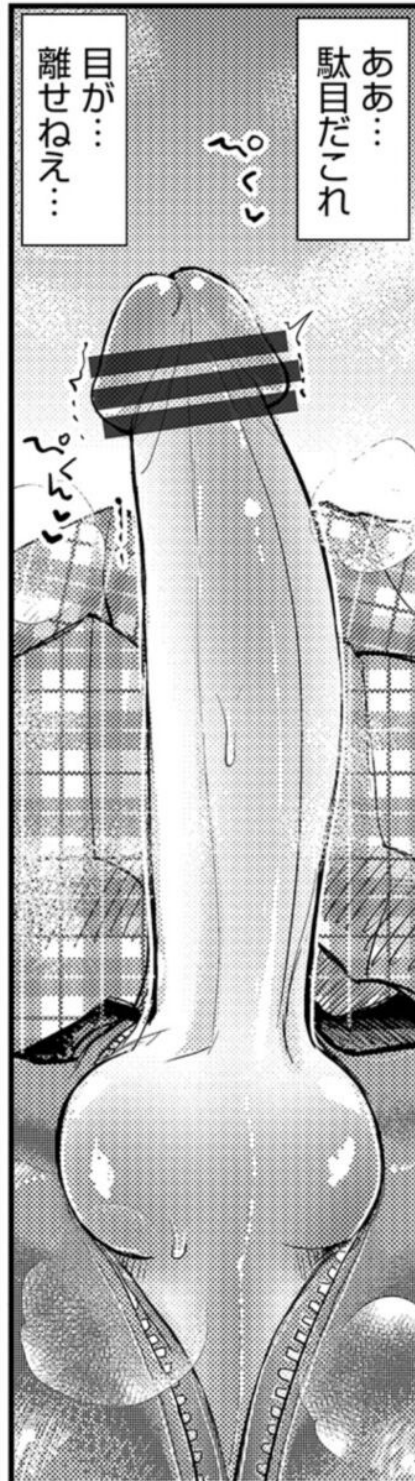


男相手に……

ヤバイ……
ドキドキする











マジかよ…

どうするって…

そりや…
お前…

マジかよ俺!?

がまん汁
でる…

ぬちよレ

へんレ

にゅレ

きゅんレ

にゅんレ

なん…だこれ

………

あう

ヤバイ…
ヤバイこれ

きもちいい…

くっ

ん

はい

めちゅ

はい

いん

す

はい

中…熱い…
きもちいい……

奥が亀頭に吸い付いて…
入口でシゴきあげてくる…

しかもコイツ声…が…
エロすぎる…
メチャクチャ興奮する…
マジ気持ちいい…

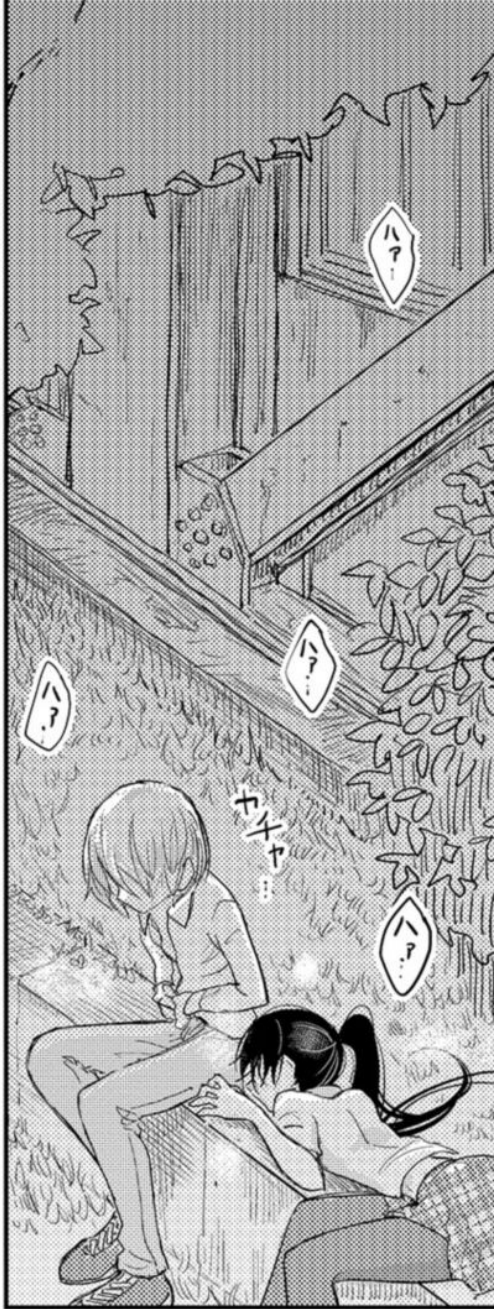
ヤバこれ絶対ハマるわ……

あだめだもう…

ごめんもうでる…







橋本くん…
かわいい♡

すごく
かわいいよ…

とってもえっちな声で
鳴けるように
なってきたね…

ちくびも気持ちよさそうに
どんだんかたくなって…

それもちんちんも
気持ちよさそうに

うんうん♡大丈夫
分かってるよ？
おしりがたまらないんだよね？

おしりのあながゆっくら
入ってきた熱いおちんちんに
前立腺がぶりぶり揺められながら
奥のきもちいいトコロをつんつん
されるともう腰の骨がとろけそうに
気持ちいいんだよね？

橋本くんのカラダ
おちんちんでおしり
可愛がってもらわなきゃ
満足できないように
ちゃんと調教して
あげるからね♡



後日

おい
みんな集合！

新人部員の
紹介するよー

高校女子テニス練習表

新人の
橋本伊織です…

2年生に
あんな可愛い人
いましたっけ？

私の友達だよ

初心者だから
たっぷりシゴいて
あげないとね♡

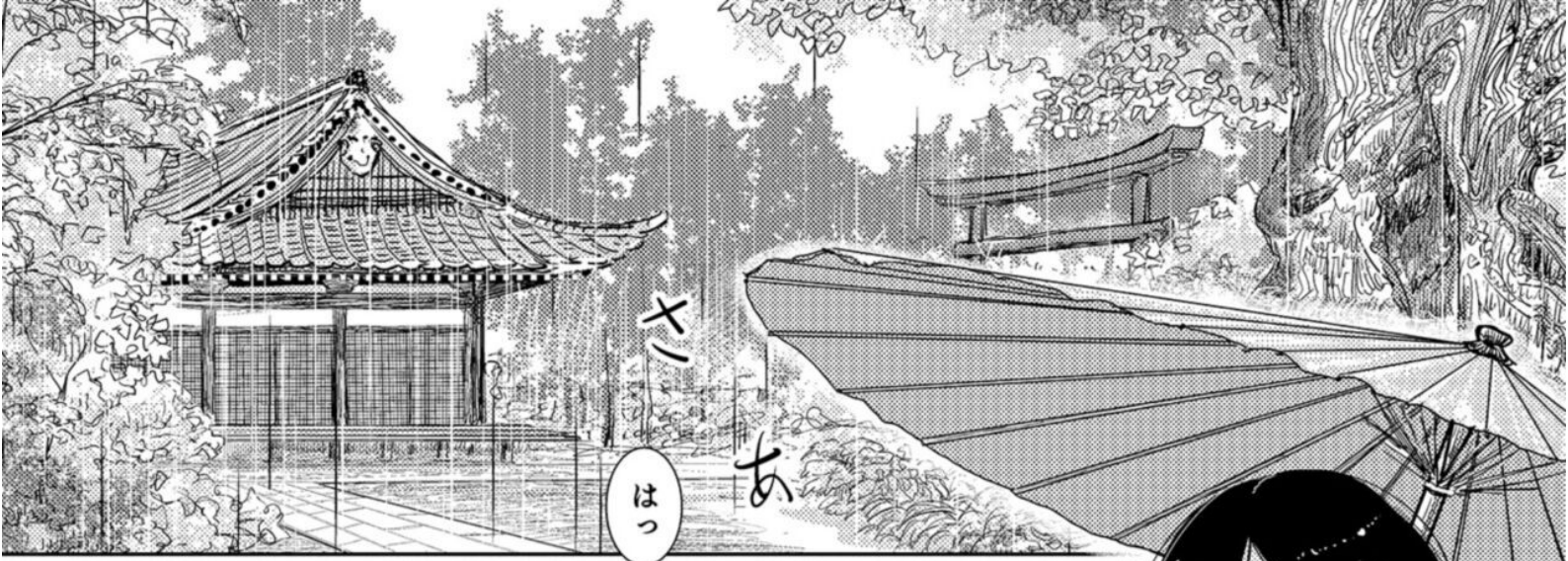
一生懸命
頑張りますので…

よろしく
お願いします！

うずうずし

フルフル

END





ん
ありがとう

5本も...

あのさ
それはいいんだけど



濡れてる

...



大丈夫!

ローションは買うの
恥ずかしかったから

ベビーオイルと
ワセリンにした

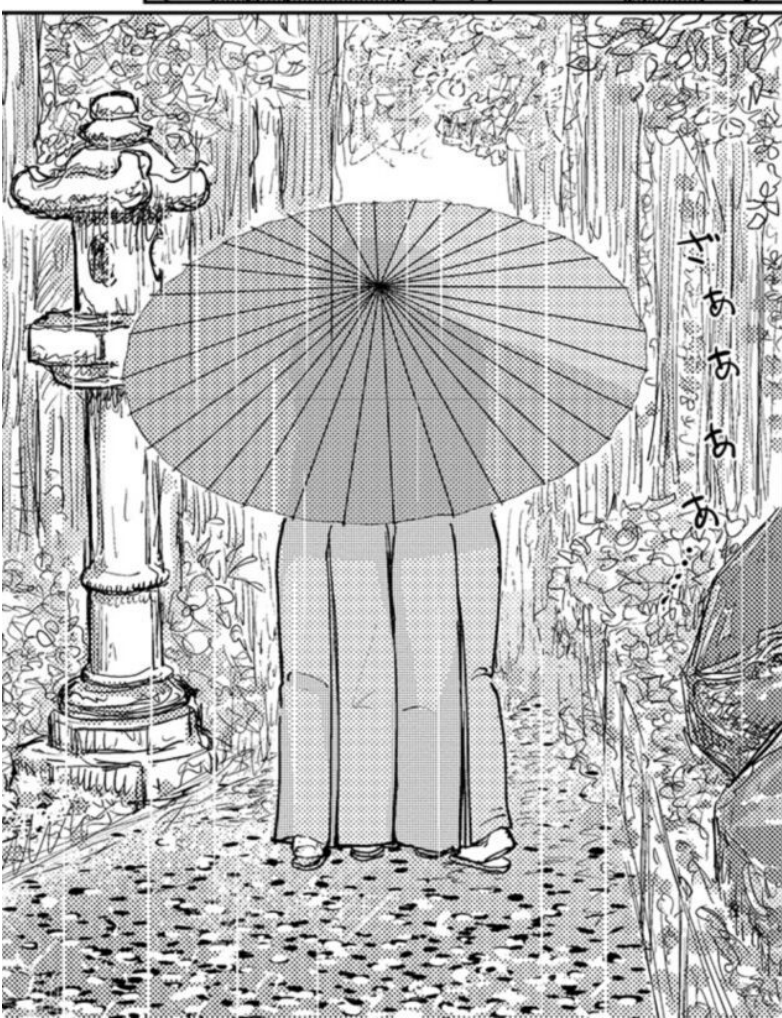


縄

透けてるよ
よく見ると...

え

だから着替えてけって
言ったのに.....









はい完成♡

どうせ声は
我慢できなく
なるんだろぅけど...

ギッ

ふんふん

あまり泣き叫ぶと
バレちゃうからね?





ふふ♡
そんなに物欲しそうな顔
しなくても今食べさせて
あげるよ

よく舐めて
ヌルヌルにしてね？



上手にご奉仕できたら…
これでハルくんの
大好きなところ

なで なで

ふにふに



腰が抜けるまで
かきまぜて
あげるからね？

♡♡♡♡♡



これが
欲しくて

はーりー

たまたまなく
なっちゃった？



そう……
上手だよ♡

ギッ

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん



あ♡ん♡
いい♡
きもちいい♡

ご褒美♡
ご褒美だね♡

ご褒美♡
あげなくちゃね♡

ぐわん

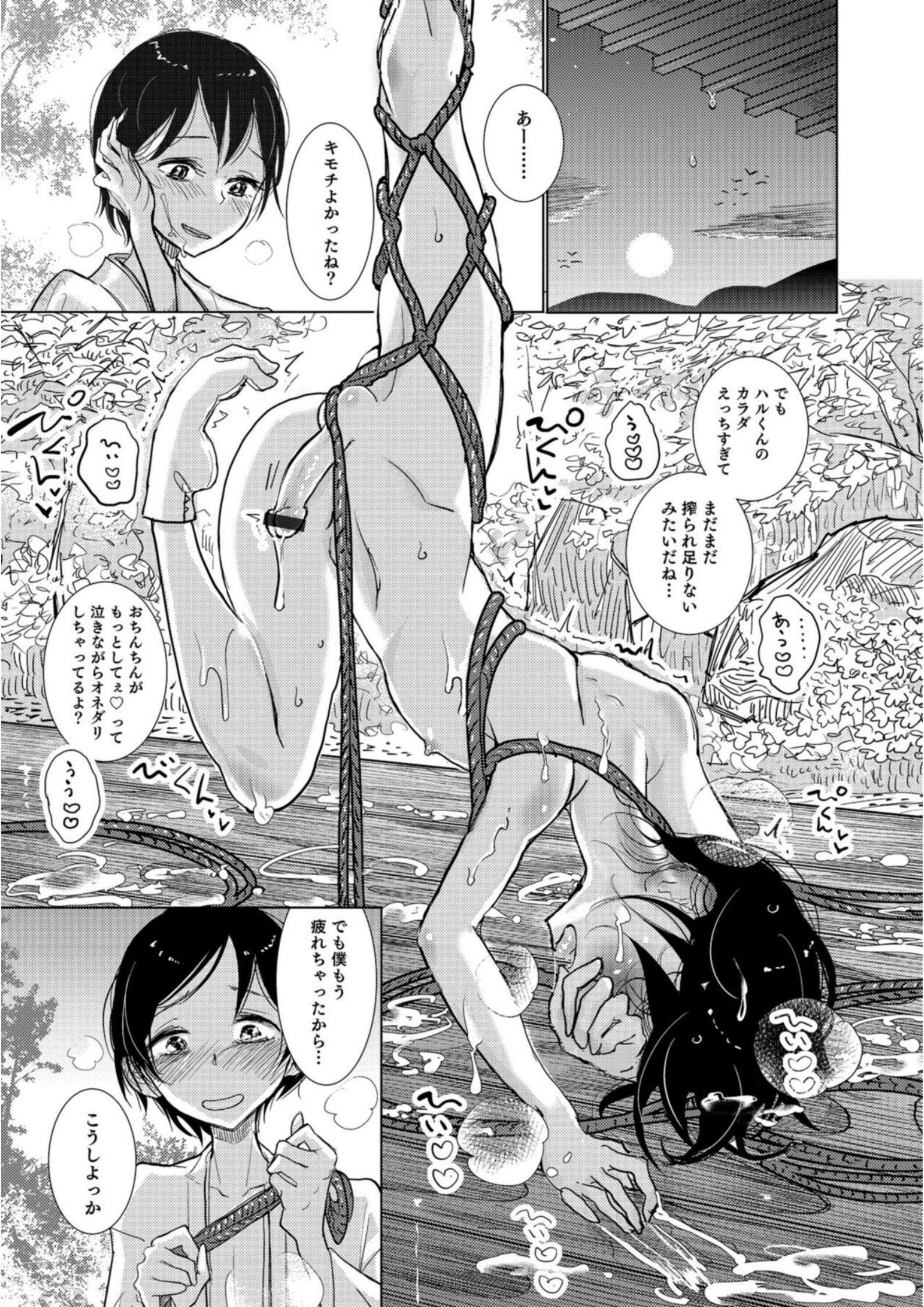
ぐわん

ぐわん









あー...

キモチよかったね？

でも
ハルくんの
カラダ
えっちすぎて

まだまだ
搾られ足りない
みたいだね...

あ...♡♡

おちんちんが
もっとして♡って
泣きながらオネダリ
しちゃってるよ？

うっ♡♡

でも僕もう
疲れちゃったから...

こうしよっか

それなら好きなだけ
お射精のキモチよさ
味わえるでしょ？

お賽銭箱がいつぱい
なるまでびゅっびゅっ♡って
していいんだよ？

この神社夜は
野良猫しか来ないからさ
明日の朝迎えに来てあげる♡

じゃあ
頑張ってね♡

奉納

■END■

僕
らは…
♡

僕
らは…
♡





会えると思っ...

.....ここに来れば



私に会いに来てくださっただけですか?

嬉しいですがなにかご用でも?

ドキドキ

う...

ハニイ...

ドキドキ



もういちど.....してください

あ.....あの...このまえの...

ドキドキ

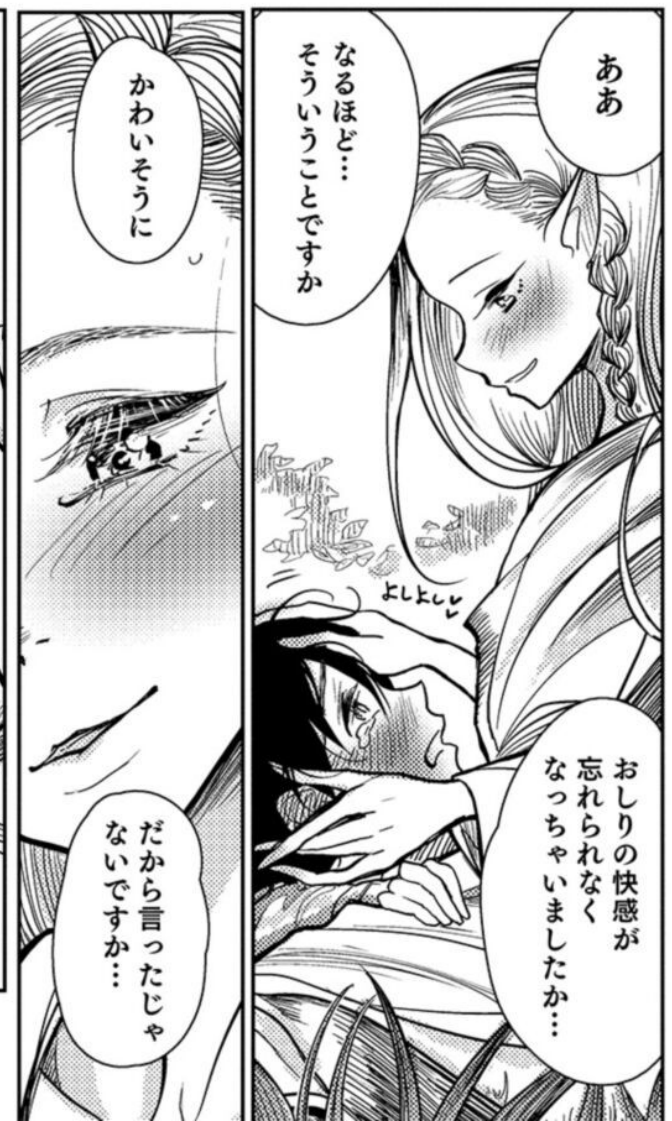


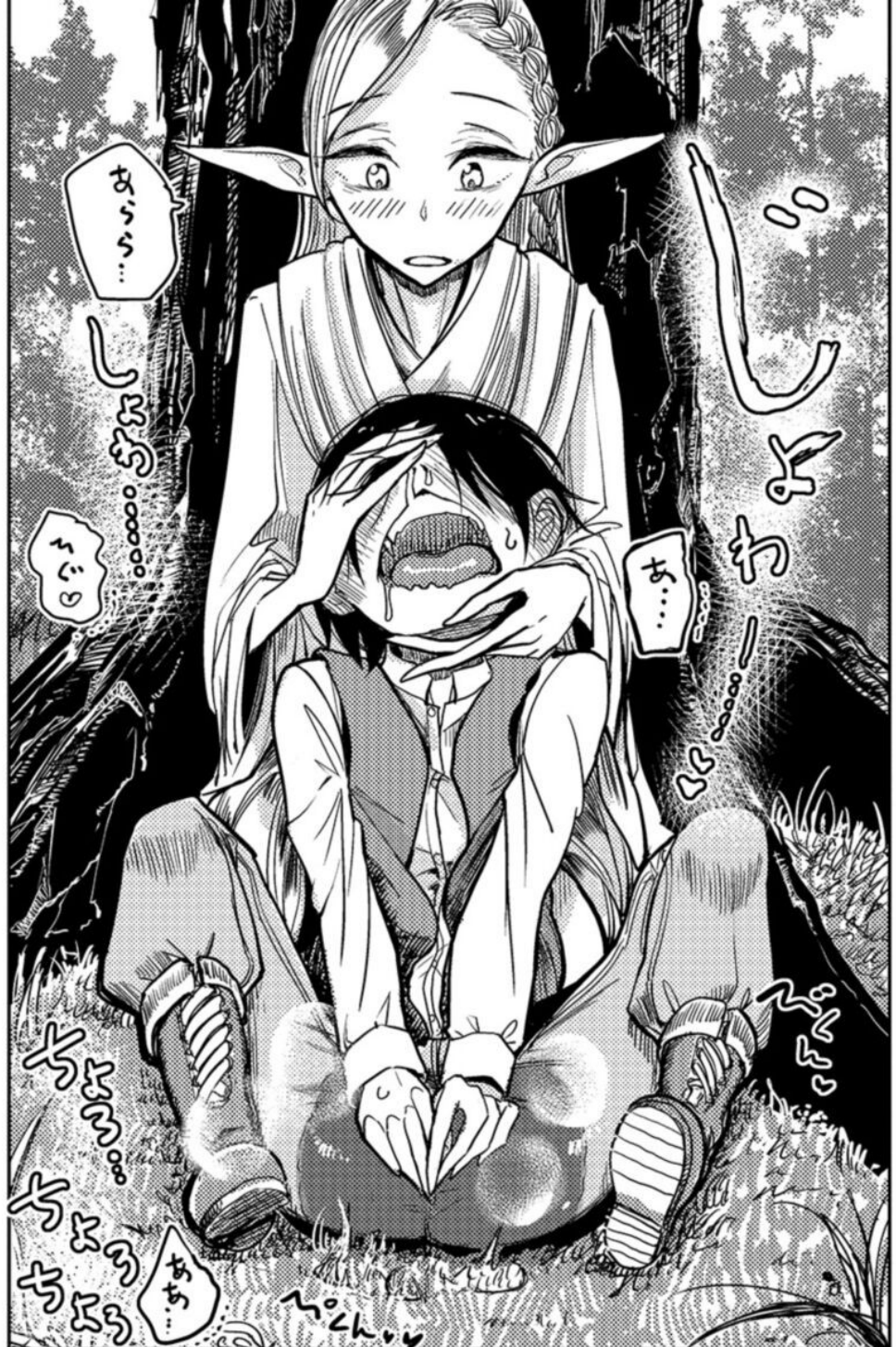
この前のホビットさん

こんにちは
またお会いしましたね?

ハキ

ガサ









ねえ
ホビットさん…
辛かったでしょう

おしりの快楽を
知っちゃったのに…

ホビットさんの
子供みたいな指じゃ
奥まで届かない
ですもんね

ここを
こうやって

くりゅくりゅ
ぷちゅぷちゅ
くすぐり回したり
できないですもんね…



その分
今日はたっぷり
エルフの指先で…

きもちいいの…
おいでおいでして
あげますからね

ふふ♡
いい子いい子♡って
撫で回されると
鳴き声が甘あく
なっちゃいますね？

ほらほらほら♡

たまらないですね？
きもちいいですね？







ほら♡
このまま
快楽の奴隷に

エルフの
オナホに
堕ちていくの
自覚しながら

射精して
くださいね？

ほら♡
ほら♡ほら♡ほら♡
ほら♡





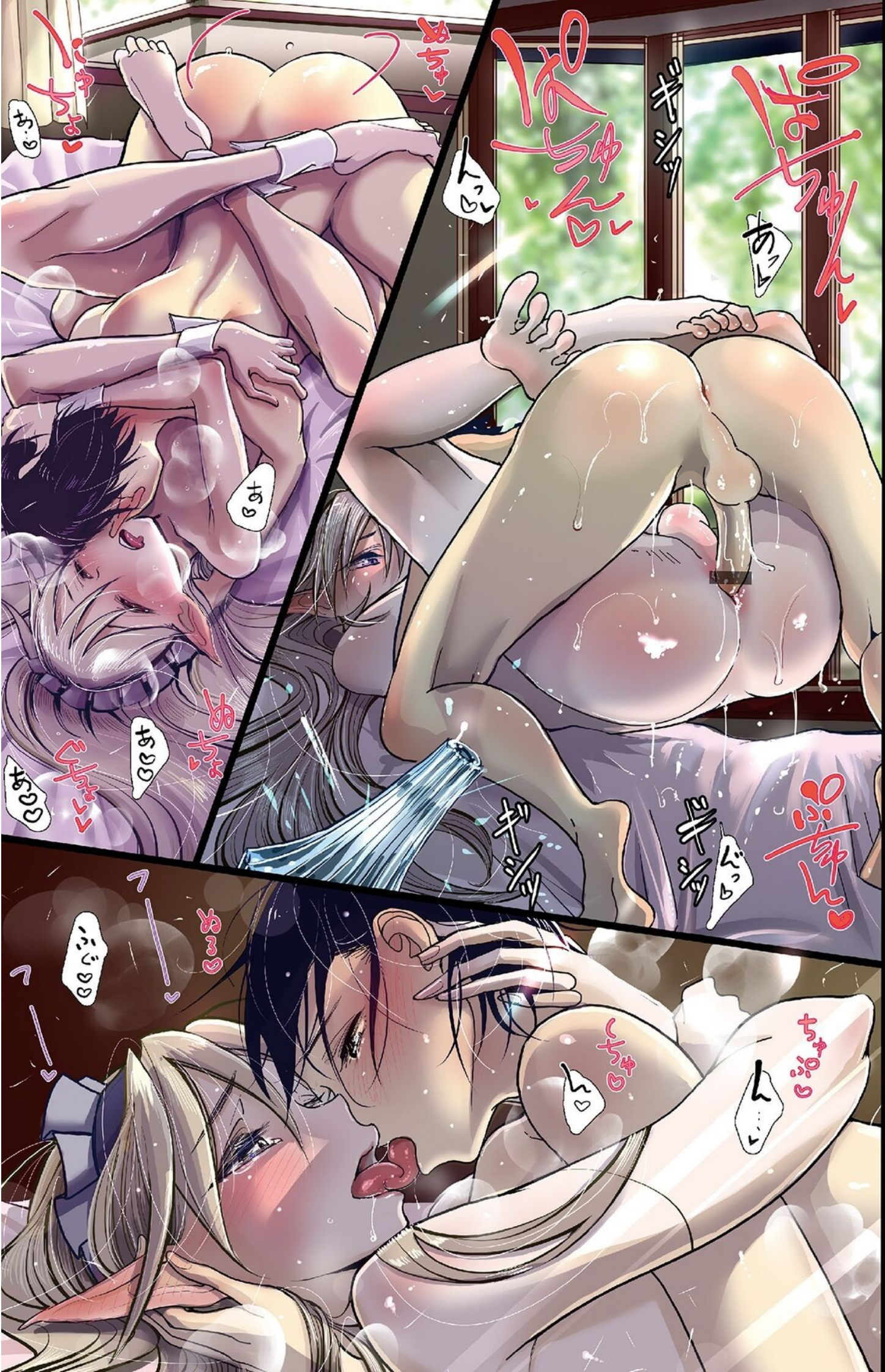


従者のおつとめ

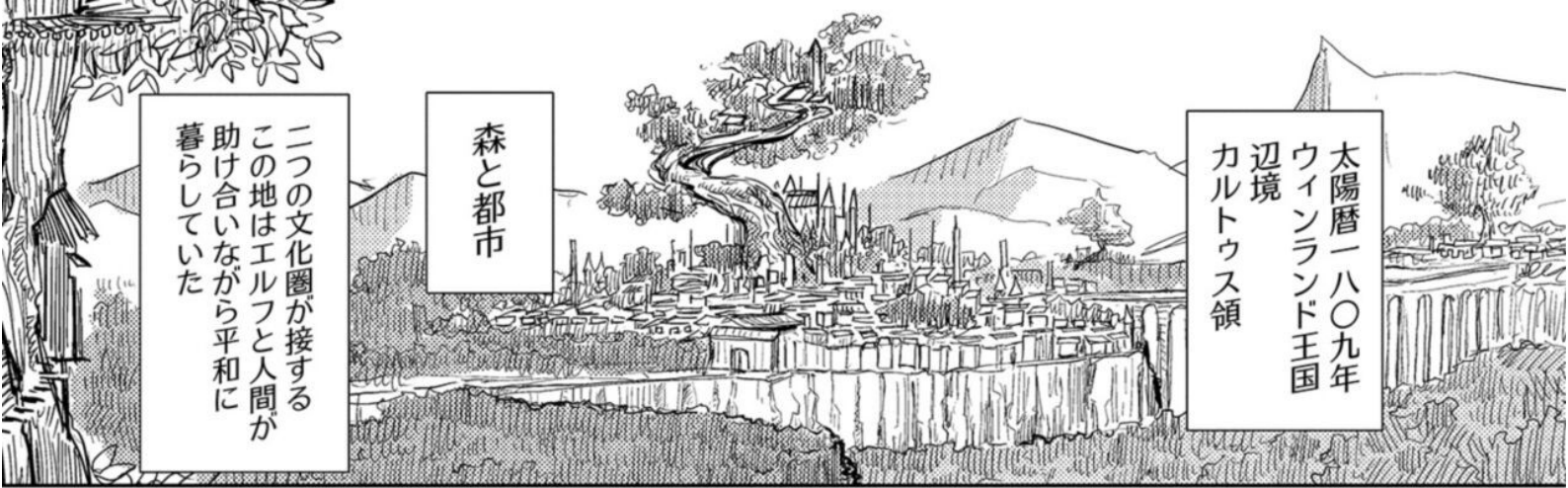
じゅうしゃ











太陽暦一八〇九年
ウインランド王国
辺境
カルトウス領

森と都市

二つの文化圏が接する
この地はエルフと人間が
助け合いながら平和に
暮らしていた



使用人のエルフ
リーフ・エヴァーグリーン



領主カルトウス二世の
一人息子 ウィル



大切な跡取りウィルに
万が一にも間違いが
おこらぬよう

男性エルフであるリーフを
メイドとして屋敷に雇用
するのを決めたのは
領主カルトウスであったが



この屋敷は
二人の愛の巣と
化していた



性別を問わず
恋愛をする
エルフの生態と

美しい者であれば
性別など些末な事
という

柔軟な思想の
跡取り息子
にとって



若様

ある日

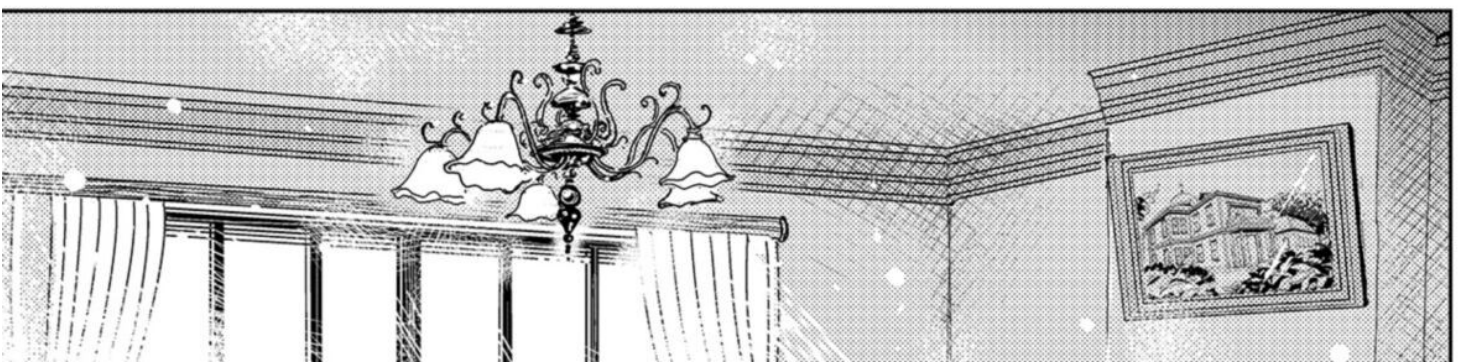


早漏気味の
ようです

治療が必要かと



若様は
少々……





あ…
あのコレ……

治療…

治療って
いったい
何を…

ギ
ン!



予感している
ようですが…



若様の
カラダはもう

カ
チャ…



いまから

何をするのか

若様には
今から

お射精を
していただきます

すーり

そ…
それが…

治療……？

はい

それも
この治療では

ただの
射精ではなく

人生最高に
きもちいい

至高の射精を
して頂く
必要があります

え…



ドキドキドキドキドキ





おちんちん
以外のところでも



お射精は
おあずけのまま

ぬちゅ

べんぐ



お辛いでしょうが…

しばらくは

ドキドキ

ドキドキドキドキドキドキドキドキドキ



ひん

つう……



くさば



感じて
もらわなくては
なりません

ぬ……

ドクン ドクン ドクン ドクン ドクン



あ……まってまって
ダメダメダメ

あっ♡

ぬちゅ

ちよ……
ちよつと待って
僕はそこは

ぬちゅ……



くさば



きもちよく
なって
いただくには

やはり…



そして

若様のような
可愛い男の子に

射精させない
まま



大丈夫…
心配ないですよ…



おしりが…

便利
ですよ…

ちゃんと
ヤミツキになるように
気持ちよくして
差し上げますから



ふふ…

プリプリの亀頭粘膜から
あふれたおちんちんの
ヨダレが…

裏スジをゆつくり
くすぐりながら…

じわじわと
すべりおち

おしりを
ぬるぬるに
染め上げて…

ああ…
私のおちんちんまで…
ムズムズして
きちゃいます…



射精という終着点に
たどりつけずに
昂ぶり続ける

やり場のない
おしりの快楽は…

人の心と身体を

こんなにも
いやらしく
かき乱してしまう
ものなのですね…



いいですよ？
もっと…もっと
はしたなく悶えて
ください…

可愛いおちんちんを
フリフリさせて
オネダリして
見せてください

可愛いお顔を
涙とヨダレでもっと
えっちに彩って
見せてください

その痴態を
知ってしまうのは…
私と…

あの上弦の
月だけですから……



はい……
結構です……

とても
きもちよさそうな
お射精です……

お上手
ですよ……

ほらも……

ぴゅっ……♡

も……♡

後日

え…？

若様…
今なんと？

……だから…

えと……
あの治療が…

あの治療が
忘れられなくて…

お……
おちんちんが

うずいて
うずいて……

もう

我慢できない…

また…治療して

ふふ…
仕方ないですね…

…では…
お召し物を全部
脱いで

四つん這いになって
いただけますか…？

もっと
きもちいいことを
たっぷり教えて
差し上げます♡

あの射精を…

もう一度
させて
…ください…

END

従者のつとめ おのゝ 裏

ウィンランド王国
辺境、
カルトウス領
太陽暦一八一〇年

都の外れ、
森の入り口に
大きなお屋敷がありました。
そこには
領主カルトウス二世の息子
ウィルソンが暮らしていました。



ウイルの愛称で親しまれる彼には専属の教育係兼メイドが付けられていました。

リーフ・エヴァーグリーン。

エルフ族の美しい人物でした。

エルフの寿命は人間よりはるかに長く、リーフの正確な年齢を知る者は誰もいませんでしたが、その経験豊かな博識さと勤勉さで理想的な従者として近隣でも評判になっておりました。

ウイルもリーフのことを姉のように慕い、仲良く暮らしておりました。

しかし、そんなリーフにも一つ欠点がありました。



それは夜伽^{よとぎ}が上手すぎることに。

若いウィルの性欲を適切に発散させるため夜の相手をすることもあるリーフですが、長い歳月をかけて磨き抜かれた技術と知識に加え、エルフ族特有の透き通るような可憐な美しさは、夜にはこの世のものとは思えない淫靡さへと変貌し、その夜の貌^{かお}は魔力じみた妖しい引力がありました。

そのテクニクは身も心も天上へと誘う至福の愛撫……。

ウィルはひとたまりもなくリーフの虜になってしまい、いつしか一人では性的に満足することができない身体へと調教されてしまっていたのです。



今日もまた我慢できずに、夜伽のオネダリを
しまします。

「……若様。若様は私の主なのですから、そんなに
おらしくオネダリされなくても、ただひと言『夜伽
を頼む』とこ下命くださればいいんですよ」

ウィルは慣れない命令口調で恥ずかしそうに本日の
夜伽を命じます。

「はい、畏まりました。では今夜そのようにベッド
メイクしておきます。身体を清めてから私の部屋ま
でお越し下さい」

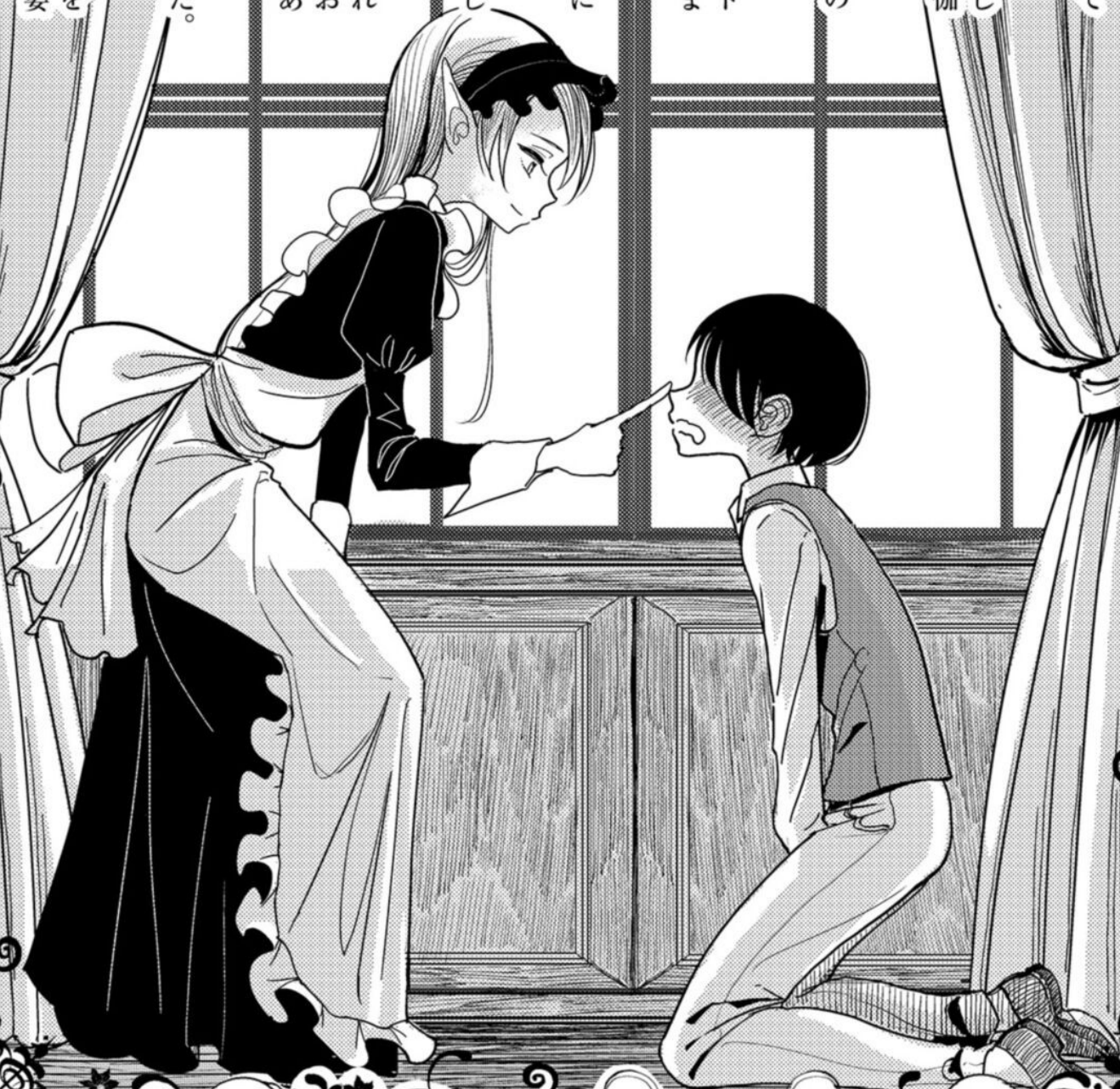
真っ赤になってうなづくウィルをどこか嬉しそうに
見下ろすリーフは、主の耳元でそっと囁きます。

「もちろんおちんちんもおしりも念入りに綺麗にし
ておくんですよ？」

リーフのその言葉に耳をこしょこしょとくすぐられ
ると、これまで身体に散々刻まれた快楽の記憶がお
しりのあたりからぞくぞくと背筋を這い上がりかあ
つと頬が熱くなって腰が抜けてしまします。

「では私はホールのお掃除がありますので夜にまた。
失礼致します。ふふふ……」

年代物の絨毯にへたり込んだウィルは期待に胸を
高鳴らせながら、仕事に戻るリーフの美しい後ろ姿
を見送るのでした。



その夜。

使用人たちが寝静まった屋敷に、自分の寝室をこっそり抜け出し従者の部屋に向かうウィルの足音が響いています。

心持ち前かがみになりなんだか歩きにくそうですが、壁に手をつきながらヨロヨロとリーフの寝室の前にたどりつきます。

コンコンというノックの音は、屋敷中に響き渡ったようにウィルには感じられました。

「おまちしておりました若様……準備は済んでおります。早速始めましょうか♡」

室内に一歩足を踏み入れただけでぞわぞわと寒気のようなものが這い上がってくるのがわかります。

テーブルの上には怪しげな液体や軟膏の容器が並び、ベッドの四隅には見るからに頑丈そうな拘束具が鎖で繋がれ、ごく普通のベッドを淫靡な晒し台に変貌させています。シーツの海を漂う豪華客船のような大きな銀のトレイには、快楽のための様々な器具が誇らしげにキラキラと輝き、その性能をウィルに見せつける時を待ち構えていました。

リーフの寝室の香りを吸い込むだけでもたまらなく興奮するというのに、今からこの部屋で何が行われるのかを否応なく想像させられてしまい、もう少しで射精してしまいそうになるのを押し殺しながらこくりと生唾を飲みこむと、震える手で自らドアを施錠してしまいます。長い長い長い快楽の夜が、今始まったのでした。



「……今夜はどのようなようにいたしますか？」

リーフは柔らかな月光が青白く濡らすベッドの上でゆるやかに指をしなせながら、淫魔もかくやという色香で誘います。

ウィルは興奮のあまり半泣きになりながらボタンを外すのもどうかしく、着ているものを全て引きちぎるように脱いでいきます。あつという間に生まれたままの姿になると、おへそにつきそうなほど勃起したおちんちんを震わせながら、そそくさとベッドに潜り込み、恥も外聞もなくオネダリを始めてしまいます。

「あれを……あれをしてください……」

自分がこの瞬間をどんなに待ちわびたかがよく分かるように、リーフに向けてうつ伏せでお尻を高く掲げ、震え上ずる涙色の声で懇願します。

シートに顔を埋めたままでも聞こえてくる衣ずれの音だけで、リーフが自分の脚の間に座りなおしたのが分かります。そして今、恥ずかしい所を全部舐めるように見られていることを、おちんちんの裏側からおしりにかけての空気が温度で伝えてくれます。



「若様……いけませんね……。あなたともあろうお方がそんな破廉恥な格好……」

芸をする子犬のように高くつき上げられたおしりにリーフの指がそつと触れると、ウィルの体が一瞬びくんとこわばります。しかしそのまま爪の先でゆつくりと撫で回され始めると、すぐにウィルの全身の筋肉がとろけてシャツにへばりつき、ひんひんと泣き出してしまいます。

「でもとても可愛い……。あの若様が……。快樂の記憶に身を焼かれて……。こんなにいやらしくオネダリできるようになっちゃうなんて……。なんだかぞくぞくしちゃいます……」

火照ったおしりにひんやりした指先がつつ……。と滑るもどかしい快感に枕に顔を埋めて耐えようとするウィルでしたが、その枕に残る髪の香りはリーフが今までに教えてくれた様々な快樂を全身に思い起こさせ、甘ったるくすぐってくるような香りに追いついてられるように、泣きべそをかきながら早く早くとおしりを上下させ今夜の分の快樂を懇願してしまいます。

「ずいぶん『あれ』を気に入ってくれたみたいですね……。いいでしょう……。して差し上げます」

『あれ』をしてもらえるとこの言葉に、始まる前からあん♡あん♡と小さな悦びの声をもらしてしまふウィル。

震える主人の睾丸に指を引っ掛けるようにくいつと持ち上げておしりを高く上げ直させると、リーフは長いプラチナブロードをかき上げながら、サイドボードで妖しく輝く様々な容器に目を移し

ます。

「でも焦っちゃダメですよ……。まずは下準備をしなければ……」その中からおもむろにクリスタルの小瓶をとり、中の粘液をとろりと手に落とし指にからめていきます。

ねちゃねちゃと粘度の高い水音が、抱きしめた枕に顔を埋めているウィルの耳を真つ赤に染め上げ、これからされることへの期待をぞくぞくとかきたてます。

それを合図に、鳥肌の立つた背すじをすうう……。つとおしりに向かって撫で上げられると、反射的に背中がびくんと反って弧を描き、おしりの穴が真上に向けられました。

びくびくと天井を仰ぐその花弁に、狙いすましたように指からとろりと粘液がたらされます。リーフの手で咀嚼そじくされたぬめりは程よく温められ、ぬるい刺激を与えながら肛門をてらてらと装飾しています。

高く掲げられたおしりから粘液がこぼれ落ちそうになるたびにリーフの指が妖しく光りながらそれを塗り広げ、確実にウィルの火照った体をぬるぬるの粘液まみれにしていきます。

背骨をなぞり下ろしてからおしりの谷間、さらに肛門をかすめながら睾丸をころがし、裏筋をくすぐりおろしながら鈴口でよだれを撫ですくって、またゆつくりとおしりへと這い上がってゆくリーフの長い指……。

繊細な工芸品の感触を慈しむような、残酷なほどに優しいそのねっとりとした刺激にひんひんとむせび泣き、くねくねと腰を振り、枕に噛み付いてリーフの香りを胸いっぱい吸い込みながら必死にウィルは耐えます。

何度も何度も指がくすぐりなぞっていったその恥辱の花弁が、むず痒くぬめる快楽に耐えきれずほんのわずかに開花しはじめた瞬間、リーフの長い指がにゆるりと抵抗なくウィルの体内に滑り込んでいきます。

「若様はこうしてあれの準備をするのも大好きですもんね」何が起ったのか一瞬分らなかったウィルですが、おしりの違和感はあつという間にとろとろの快楽に変貌し、

「♡あ……♡ああああん……♡」

聞くものの嗜虐心をいやらしく挑発するようなその嬌声に、ウィル自身もびっくりしたように顔を伏せ、枕を噛み締め必死に我慢しますが、かえって漏れ出てくる鳴き声はさらに淫らに空気を桃色に染めていきます。

部屋中に響く主人のはしたない鳴き声でその長い耳を愛撫し返され、興奮してきた様子のリーフ。淫魔の触手のようなその指がおしりの中からおちんちんの裏側を撫で進み、ついにその快楽の源にたどりつきました。

キュンキュンと身悶えるその器官を指の腹全体でうねるようにこねまわされると、耐え難いほど切なく甘い快楽がおちんちんの根元から先っぽまでじわじわとこみ上げ、とめどなくあふれる透明なヨダレとして鈴口からきらきらと滴り落ちていきます。

リーフの中指一本に全身を操られ、足の指をくばくばと開閉させながら、甘くなり続ける鳴き声を枕の奥へ送り込むウィル。

その両手は切なげにシーツの上を泳ぎまわり、汗と鳥肌にまみれた背中はずくずくと反り返り、おしりの頂きからこぼれた粘液が背筋の溝をくすぐりながら肩甲骨の間のあたりまで滑りおりてきました。





おしりの下準備に加わってない方のリーフの手はにゆるにゆると睾丸を揉み転がしていましたが、甘くじれったいおしりの快感に耐えかね、シートと鈴口をヨダレの糸でつなげっぱなしの哀れなウィルのおちんちんを見かねたようににゆるりとカリくびまで撫で下ろすと、優しく優しく先端にだけ指をからませ始めます。

おしりの中で泳ぎくねる指の動きに指揮されとめどなくあふれる鈴口のヨダレをすくいあげると、繊細なガラス細工の形を指先だけで確認するように、カリ首のまわりや裏筋から亀頭にかけてのラインをそっと優しく撫でまわします。

先端とおしりにだけ与えられるそのあまりに切なすぎる快感に、もはやおちんちんにしか力が入らなくなっているウィルは涙ながらに懇願します。

「あれ……♡ あれをください……。 もう……もう僕……ああはああ♡♡ ……ひぐうう……♡」

ぐちゃぐちゃの顔でふり返りながらの可愛い主人の命令という名のおねだりに満足したリーフは手を止め、名残惜しそうなウィルのおしりから一旦指を引き抜いてしまします。

ぬちょ……♡ つかの間、快楽から解放され荒く息をつくウィルでしたがおしりやおちんちんはじくじくと熱を発し続け、ウィルの快楽に休息を与えません。腰がぬけて満足に動けないウィルをあおむけにひっくり返すと、その脚の間で見せびらかすようにメイド服をするすると脱ぎ始めます。

「ふふふ……わかってますよ……若様は……私のこれが欲しくてたまらないですよね？」

純白のエプロンと漆黒のワンピースが脱ぎ去られてしまうと、淫靡な下着に彩られたリーフの美しい肢体が現れます。

なによりも目を引くのは高価そうな下着をかきわけ股間にそびえる男性器でした。

いままで幾度となくウィルのことを快楽のどん底に突き落としてきた、しなやかで美しいエルフのおちんちん。

それを見せびらかすように眼前に突き出されると、その美しい淫茎にこれまで刻み込まれてきた愛おしい快感が背筋の震えとともに沸き上がってきます。

全身の疼きが理性を溶解させていくのをおしりを感じながら、ウィルは考える間もなくその亀頭にキスをし、いやらしく舌をからめ、口に含んでちゅぶちゅぶと必死に口内で愛撫していきます。

「ください♡ このおちんちんを僕のおしりにください♡」

涙色の視線で訴えながら、リーフに仕込まれた口技で健気に奉仕し、淫らな水音を奏でます。

あえて快感を表に出さないように努めて平静を装っていたリーフですが、ウィルのやわらかな唇にぶりぶりとかリ首を小刻みに往復されながら舌先で鈴口をくりくりこねられると微かに声を漏らしてしまいます。

「若様……ずいぶん私を挑発するのが上達しましたね……」

興奮した様子でおちんちんを突き出し、ウィルの喉を突くように押し倒すと、ぬろろろ……と長さを誇示するようなゆっくりとしたストロークでおちんちんを引き抜いていきます。

「さ……おまちかねの『あれ』の時間ですよ?」

ウィルの半開きの口とリーフのおちんちんをヨダレで細くつなげながらそう宣言されると、ウィルは赤ちゃんのおしめを変える時のように自ら膝を抱え、恍惚の表情で『あれ』が始まる覚悟を決めているようでした。





期待しすぎて息も絶え絶えのウィルの両手をしっかりと捕まえ指を握り合い、至近距離で見つめあう形で覆いかぶさるように組みしかれると、リーフの髪の毛の甘い香りが鼻先をくすぐり、吐息が耳の中から脳みそまでしみこんでくるようです。先走り液を互いの亀頭にグリグリと塗り広げると、痛いほど勃起したウィルのおちんちは親に甘える子猫のようにリーフのそれに頭をこすりつけながら泣いていました。

ヌルヌルになった亀頭ですでにとろとろの肛門を撫で回されながら、いよいよ始まる「あれ」の快楽を思い、上からも下からもヨダレを垂れ流して泣き出してしまいうウィルと、その涙をそっと舌で舐めとるリーフ。

涙の軌跡を撫でるようにそのまま耳元まで舌先をすべらせ、おしりより先に耳の穴を犯すように熱くしめった吐息とともに、ウィルが何日も待ち望んだ言葉で脳みそをとろけさせてくれます。

「泣かないでいいんですよ……。あと数秒で始まりです……。たっぷりほぐして……。たっ……。ぷり焦らしたので……。ちよっと天国が見えちゃうと思いますけれど。大丈夫……。ちゃんと手加減して……。死ぬほどきもちいい程度で……。ずっとキープしてあげますからね。……覚悟は……。よろしいですね？」

鼓膜を直接くすぐられ体が沸き立ち、肌が泡立つようにぞくぞくと震え上がりながら、はいと返事をするつもりだったウィルの口から漏れ出たのは「ひゃい♡」という子猫のような鳴き声でしたが、それがリーフの耳を愛撫すると同時に、おしりの穴の形が強制的に心地よく変わっていく感覚が背すじを駆け抜けます。

とろとろに蕩けきったおしりの肉をかきわけ、熱くぬれそぼつたりーフの美しいおちんちんがゆつ……くりと入ってくる、その圧倒的な量感と多幸福感に、泣きながら身悶えるウィル。

焦らされ尽くした恥部をじわじわりーフの形にされていく快感に、媚びきった鳴き声をとめどなく漏らし続けてしまっています。

とってもいい声で鳴けるようになった主人の頭をいい子いい子とナデナデしながら、その荒い呼吸に合わせて緩急をつけじわじわと侵入していくりーフ。

貪るように息を吸い、桃色の嬌声として吐き出すたびに、ウィルの声は大きく甘くなり、もつと奥へと哀願してしまっています。

1ミリ、一呼吸おいてまた1ミリと、焦らすように意地悪に粘膜をにゆるにゆると侵攻してくるおちんちんが、ウィルのおちんちんの根元の裏側あたり、さきほどまでりーフの指がさんざんにころがし、いじめ、焦らし、甘く甘く昂ぶらせ調教されつくした快楽の源へとたどりつきます。

ぷりぷりに火照ったその器官を、りーフのおちんちんの絶妙な高さのかり首がくちゅんと撫でた瞬間の脳みそがとろけ落ちそうな幸福感にウィルはたまらずに、

「♡♡♡~~~~♡♡♡」

貴族の男子として決して許されない、甘えきった吐息の音色。

それが従者の柔和な表情に隠された淫猥な嗜虐心を呼び覚ましてしまっています。

「ああ……私が耳弱いのご存知のくせに……。耳元でそんな鳴き声……これじゃ言葉責めです……。意地悪な若様……。悪い子……」

主人の嬌声に耳をくすぐられ、サディスティックな悦びに興奮しはじめたりーフがいやらしい水音を容赦なくはじけさせながら抜き差しをはじめます。

自身のお尻の悦びを代弁するような恥ずかしすぎる淫音に耳を犯

されて真っ赤になりながらヨダレを垂らし、このまま一生こうじていられたらどんなに素敵だろうと、飛んでいきそうな意識でヨガリ狂うウィル。

りーフが腰を振るたびにその長い髪がウィルの顔や胸に落ち、敏感になった乳首やうすく肋骨の浮く脇腹をくすぐっていきます。ウィルの顔にかかる髪をはらい、こぼれる涙を甲斐甲斐しく拭ってあげていたりーフの両手は、火照りきった体をこちょこちょと撫で回し、髪にくすぐられる薄い胸板の上を焦らすようにくるとなぞった後、ぴんぴんに主張する両の乳首を可愛がりはじめます。

乳首をかすめるように指の腹で転がされ、爪でつままれ、優しく転がすように愛撫されるたびにおちんちんが跳ねまわります。

さらに追い討ちをかけるようにりーフの舌が片方の乳首を舐りはじめ、いやらしく音をたてながらついばみ、時に前歯で締め上げ、かと思うとやさしく舌先でチロチロと慰めてくれます。

おちんちんがとろけ落ちそうになる乳首の快感に共鳴しておしりの中の快楽の源がきゅんきゅんとさらに敏感になり、じわっと増量してしまった先走りのヨダレを自身のお腹に撒き散らします。

おちんちんが跳ね回って悦んでいるのが見つかってしまうと、乳首の愛撫に合わせてりーフのかり首がくちゅくちゅくちゅと小刻みに抜き差しされ、おちんちんの根元の神経を上からも下からも可愛がられてしまう信じられないほどの快楽にとろける顔を至近距離から見守られながら、マタタビに酔った子猫のようにくねくねとむせび鳴くウィル。

そのおちんちんは一人取り残され、自身の先走りて全身を気持ちよさそうなヨダレ色に染め上げながら、びちゃんびちゃんと跳ね回っておへそを叩き、僕もさわってくださいと必死にアピールしていました。

もどかしさに耐えられず、自身のおちんちんを慰めようとす
るウィルの手をさりげなく捕まえながら首を横にふるリーフ。

「だめですよ、ご自身でなさっては……。せっかくの夜伽なん
ですから、私の手淫でお射精したいでしょう？ おしりといっ
しょにおちんちんも思いつきりしごいて欲しければ、そうお命
じくさいませ。さあ、ご下命を」

「おちんちんもしごいて」というウィルの熱望はしかし、言葉
になる前に情けない嬌声に変わってしまします。命令しようと
口を開いた途端、リーフのおちんちんがひときわ甘く、ウィル
の弱点を意地悪くえぐりこんだからです。

「！……いひああああ……♡」

「ふふふ……困りましたね……。若様の命令なしにおちんちん
をしこしこするわけにはいかないですね……」

「おちんちんを♡ あはああん♡」

何度命令しようとしても、ウィルの口が必死にヨダレを飲み
込んでなんとか言葉を紡ぎだそうとするたびに、その瞬間を狙
いますように一番きもちいいところを舐め回してくるリー
フのおちんちんがそれを許しません。

「おちんちんの裏側かきませられながら私の手淫を味わって、
内と外から精液搾られてきもちよお！……く噴水みたいにびゅ
うびゅうお射精したかったんでしよう？」

「今……私の手淫でびゅっびゅっ♡ってしたら……。……もう
死ぬほど気持ちいいですよ……」

いやらしくニヤけながら、ほんのちよつとだけ、指の輪っか
でゆるう……くカリ首をいじめて挑発してくるリーフを涙の底か
ら恨めしく見つめながらも、強すぎるおしりの快楽に、口から
出すことのできるのは嬌声まみれの熱い吐息とヨダレだけ。



ついにおちんちんの疼きが臨界点を超え、とろりと精液を漏らし始めてしまいます。

「あ……ほら、若様が早く命令してくださらないから……おもらしが始まっちゃいましたよ？」

くちゅくちゅとウィルのおしりを責め続け、精液のおもらしを加速させるリーフ。あまりのうずきと甘さのせいで、おちんちんがとろけてしまったのではと錯覚するほどのその情けなくも甘すぎる吐精は、射精と呼ぶには絶望的に解放感に欠け、はじけとぶような爽快感とともに放出するはずだった大切な精液をとろとろの淡い快楽とともに消費させられてしまいます。

「ほらほら早く命令を下さないとせっかく溜めた精液全部おもらししちゃいますよ？ 私のおちんちんにおしりから押し出してもらわないとお射精できない身体になっちゃいますよ？」

汗でべったりと顔に張り付いた髪をかきあげられ、真上から顔を覗き込みながら最後のチャンスとばかりに命令する時間を与えてくれるリーフですが、止めどなく襲いくるおしりの快楽がウィルから言葉を奪い、ただただ全身の穴から愛液を垂れ流し、あんあんともせび泣くことしかできません。

「やれやれ仕方ないですね……。命令いただけないのでしたら……そんなお口は塞いじやいましょう♡」

リーフは優しくそう囁くと、にゅちゅつと音を立ててウィルの唇を自らの唇で塞いでしまいます。

いままでウィルの嬌声がこだましていた室内は急に静かになり、代わりにお互いの唾液を交換し舌を絡め唇を噛みあう水音と、ふうふうという熱い息遣い、グチヨグチヨというピストンの音が月光に浮かび上がります。



「ご安心ください。……お射精のかわりに……今夜はおしりでいやというほどいかせて差し上げます」

ぷはっという息継ぎとともにリーフはそう囁くと、返事をする間も与えずに再び口を塞ぎ、ゆっくりと気持ちいい所をいちいち意地悪くねぶりながら舌とおちんちんを侵入させます。

おしりの入り口に力りをひっつけた状態から内側へ、圧倒的な熱と愛でもって体内をすべり来るリーフ。おちんちんの根元をにゆるにゆるとかき鳴らされると、そこから耐え難い快感が先っぽまで込み上げ、精液としてとろりと排出され、鈴口から睾丸まで白い流れが熱く舐め下ろします。

ウィルのおちんちんが快楽に苦しむ様子を観察しながら、今日一番の奥まで侵入を果たすと一度動きを止め、ウィルが暴れないようぎゅっと抱きしめ直して、今度は身体中の水分を吸い尽くすようなキスとともにおもむろに引き抜きにかかります。

奥の奥から禁忌の快楽をすくいとってくるように、ゆうー……っくりとした引きに合わせて鳥肌が背すじをかけめぐり、唾液とともに全身の筋肉から力が吸い取られるようでした。ところと漏らし続ける精液で己を飾り付けながらおしりでおちんちんにむしゃぶりつくことしかできないウィル。

もはや言葉を失い、男の子射精することを忘れ、乳首をくすぐられ、耳孔に淫語をふき入れられ、おしりで絶頂し、精液を漏らし続け、その両手両脚でリーフの背中に絡みつきます。がりつき、従者の長く火照った耳に舌をからませ言葉にならない言葉で愛撫し、哀願し、懇願し、交尾する軟体動物のようにならまり合いながら、東の空が白み鳥たちが新しい日を祝福しはじめるまで至極の快楽に溺れさせられるのでした。



朝日が差し込むメイド長のベッドの上に、淫靡な道具や空になった容器、鈍く光る拘束具などが散乱しています。

その中心では全裸の二人がゆるく絡み合いながら小さく寝息をたてています。片方は美しいエルフ。朝日に照らされたその寝顔はとても満足そうなものでした。もう片方の青年は全身様々な粘液にまみれ、爪あとや歯型が残り、手足には拘束具のあとがついたままとという有様でしたが、その涙のあとが残る寝顔は天界から舞い降りてきた天使のように、幸福そのものといった微笑みを浮かべておりました。



體育倉庫

白雪女学園

僕の中性的な魅力で
学園のアイドルに登り詰め
女学生どもとセックス漬けの
学園生活を送るために

女と思わせて
油断させるんだすよ
ちようい
ちようい

樂園学園

うくえんがくえん

2時間前



マコトのクラスメイト
新城ヒナ

新城ヒナ…くん

まさかボクの他にも
男子がいたとはね…

でもこの学校に竿役2人も
いないんじゃないかな？

ええ…
私もそう思います

橘マコトさん♡

でも大丈夫

橘さんには今日から
女の子になって
もらいますから…

は？
何言って

大丈夫
私に任せて…

竿役じゃ満足できなく
なっちゃうくらい…

キモチ良くして
あげますから…



どう?
入れられる側になつた気分は♡
背中トリハダ
すごいよ?

このまま
女の子になつちやうまで
かきまぜてあげるからね♡

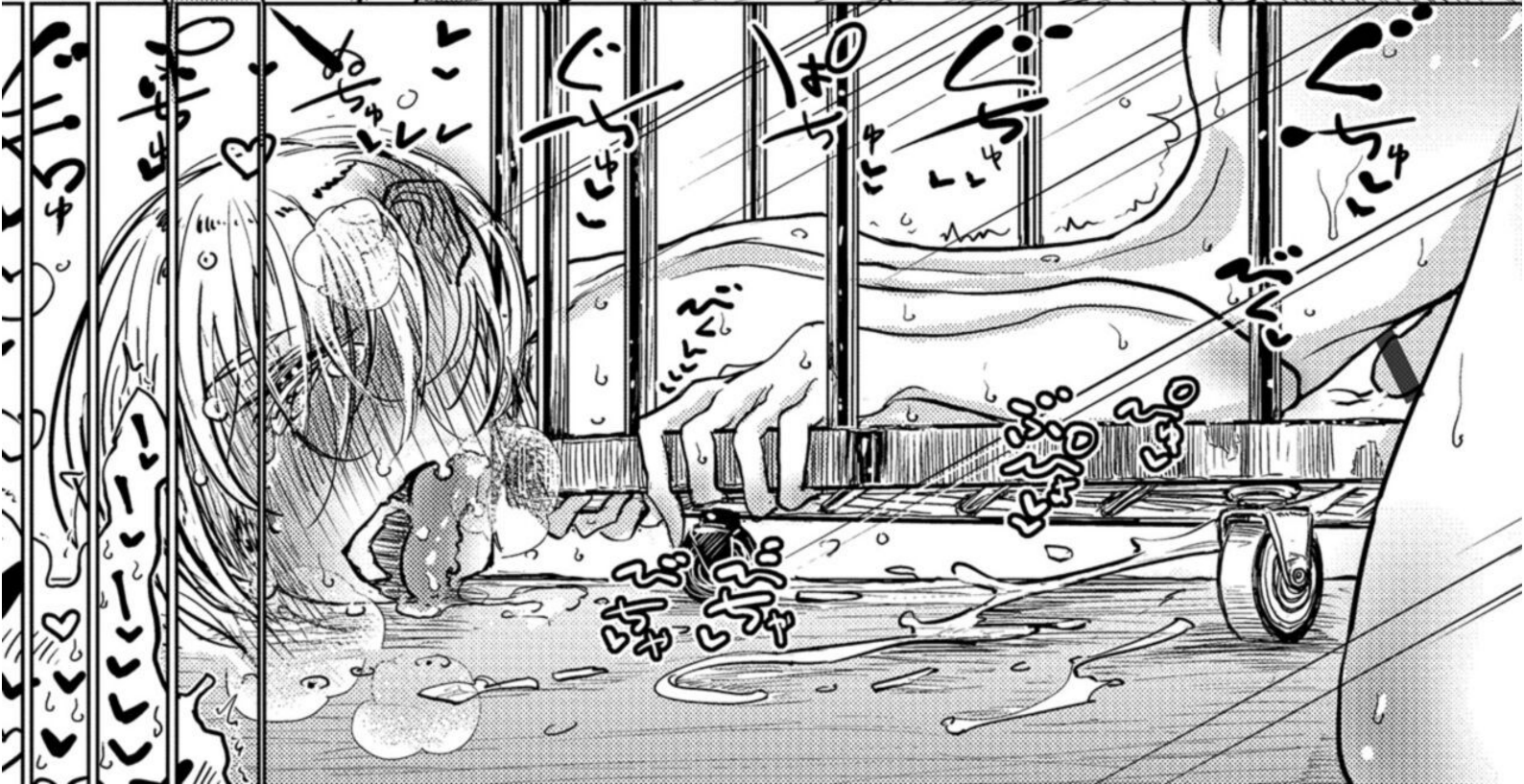
いい鳴き声♡
すっごくきもち
よさそうだね♡



あ♡
おしりが...
キョんキョんって♡
もう...いきそう...

いいよ?
今度は最後まで
してあげるよ?

女の子になつちやえ♡



十日後

それで？



これで…
どうしろと？



…ほら
どうしたの？

…
そんな…♡

ちゃんと
エッチにオネダリ
できなきゃ
可愛がって
あげないよ？



んん…
どうしよっかな…♡

じゃあ…
もっと♡

もっとエッチな恰好で
オネダリしてごらん？



それで…
あのときみたいに
してください♡

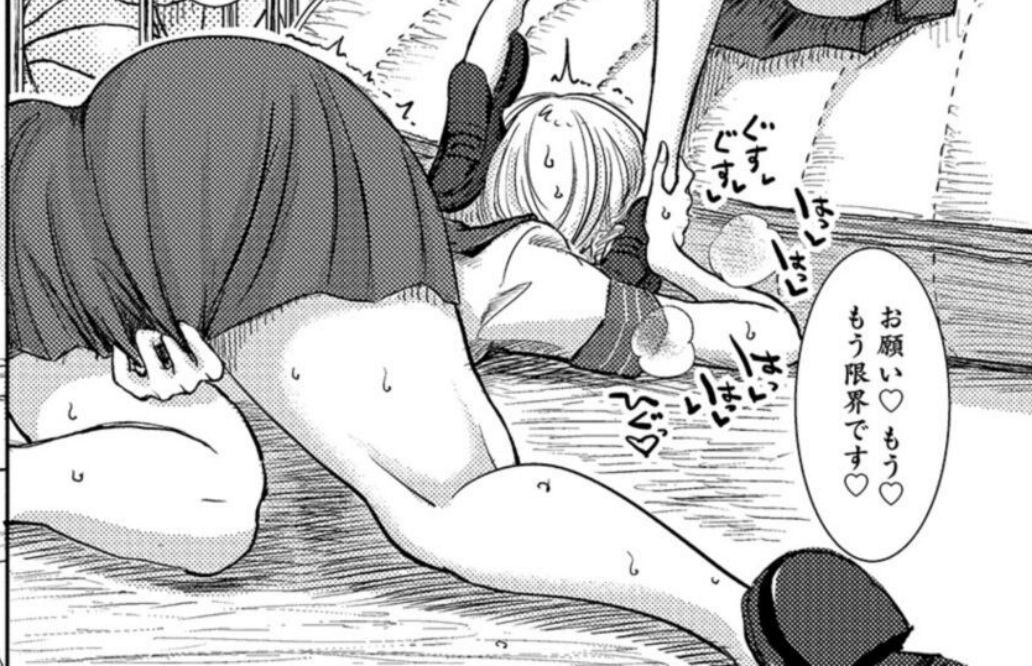
あれから
なにしても…
満足できなくて

ヒナさんのおちんちんで
また♡おしりから
射精させてください…♡

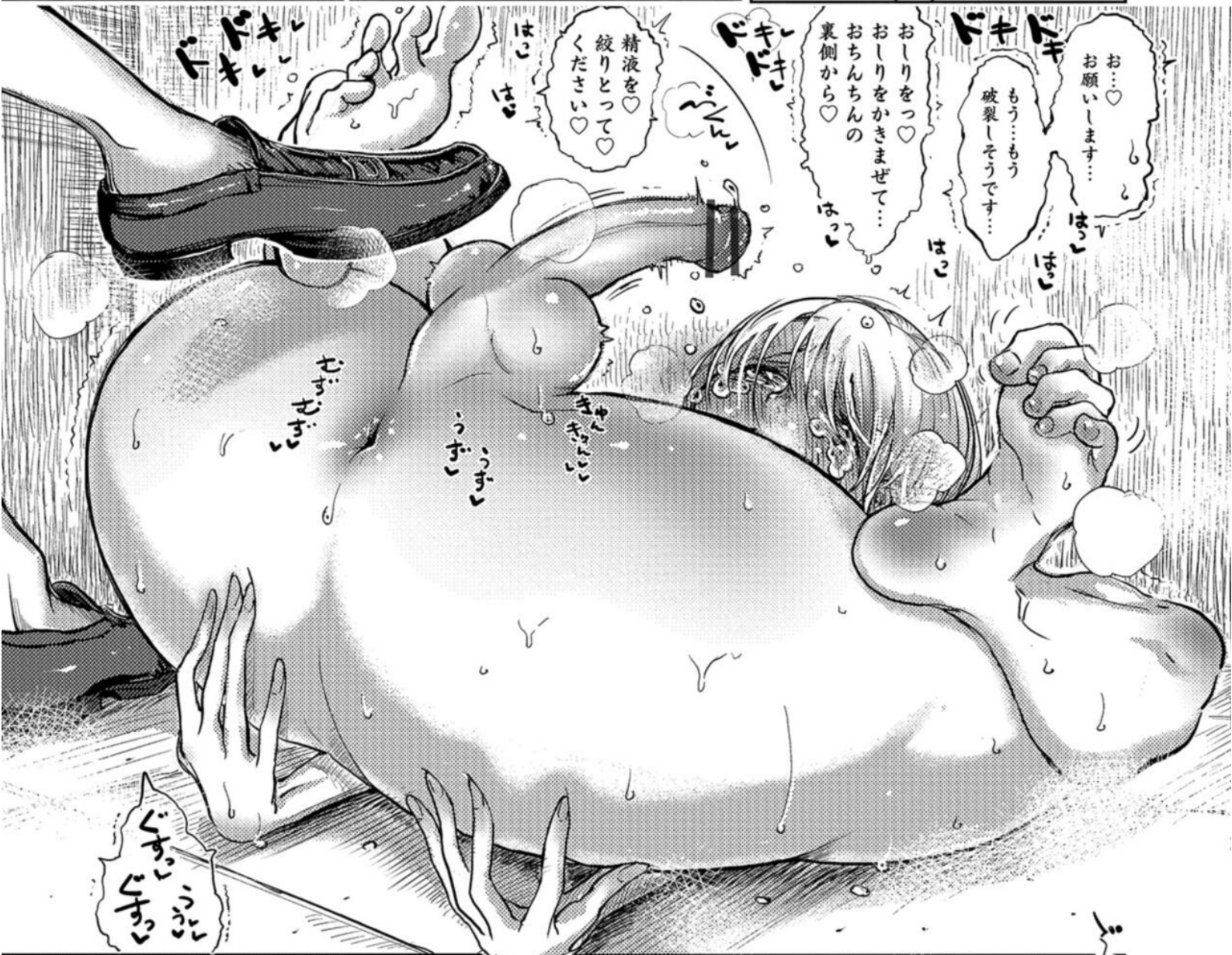


ひどくないよ…
信じられないくらい
きもちよく
なれるんだよ…？

あう…♡



お願い♡もう♡
もう限界です♡





みんな順番に
仲良くね♡

じゃ...毎度♡

END

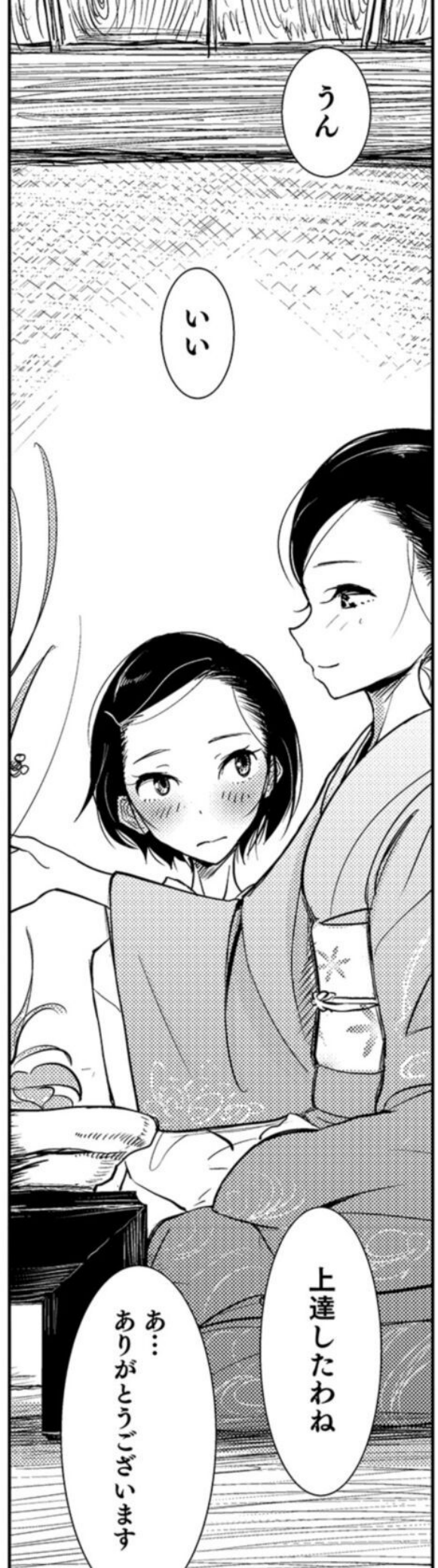




じゃあ
そろそろ…



仕上げに
入りましょう



うん

いい

上達したわね

あ…
ありがとうございます



ああ...

とてもきれい...

.....

ドキ...レ

ドキ...レ

ドキ...レ

くっく

くっく

チン

チン

チン

チン

チン

チン

でもまだ
物足りないわね…

あなたの

美しさを

もっと

引き出すには…

あと

なごり なごり

どこを

どうすれば

いいかしら？





くす…♡
おちんちんから…

エッチなよだが…
こんな…

「射精させて
ください♡」って…
泣いておねだり
してるみたい♡

あらあら♡

そんなに
なっちゃって…
もう限界なのかな？



じゃあそろそろ



あなたのアイデアを
取り入れて…



この作品を
完成させましょう

天国に連れてって
あげるからいい声で
鳴いてみせてね？



たまたまが…
こんな
きゅんきゅんって
してきてる…

ここ？
おしりくりくり
イジめられるのが
たまらないの？

ほらっ…

あーい





ふう…
ごめんなさい
少し興奮
しすぎちゃった…
でもおかげで
とても可愛く
仕上がったわね…

…作品名は…

そうね…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

ほた...

水蜜の桃源...

あ...

とでも...
しておきましょうか...

ふふふふ...♡

ほた...

あ...

あ...

■END■



おまけ 従者のおとめ





若様可愛い♡
勃起しちゃう♡

いかせて♡♡♡

まだですよ
若様

もう少し
ほぐした方が
気持ち良くなれます♡

おちんちんしか
動かせなくなるくらい
全身とろとろに
ほぐれたら

若様の
だーいすきなトコロ
泣くまで可愛がって
差し上げます♡

おちんちん
くすぐりながら
おしりの中
いい子いい子して

男の子だけの天国を
たあくっぷり味わって
もらいますから
覚悟してくださいね♡

■END■



僕らは…♡

◆◆◆ ISBN978-4-86674-560-2 C9979 ◆◆◆

MDコミックスNEO

MD
COMICS
NEO

No.336

著 者：ディビ

発行日：2019年01月20日 第1刷発行

発行者：岩尾悟志

発行所：株式会社 **メディアックス**

〒162-0805 東京都新宿区矢来町113 神楽坂升本ビル3F

TEL：03-3235-5541

製 版：株式会社オノ・エワン

印 刷：中央精版印刷株式会社

* Cover Design ……Crane

◇本誌掲載作品はすべてフィクションです。実在の人物・団体・事件などとは一切関係ありません。

◇本書の無断転載、複製、上演、放送を禁じます。

◇購入者以外の第三者による本書の電子データ化および電子書籍化はいかなる場合も禁じます。また、本書電子データの配布及び販売は購入者であっても禁じます。

落丁・乱丁は小社にてお取り替えいたします。定価はカバーに表示してあります。

Printed in Japan.

おしり専用
粘度ローシ
大

ISBN978-4-86674-560-2
C9979¥1100E

メディアックス

雑誌51558-80

定価: 本体1,100円 + 税

収録作品

変身
忠犬
火華
転職
時間操作デバイスのかたち
ラクロス沼
甘雨の社
エルフ中毒
従者のおつとめ
従者のおつとめ・裏
楽園学園
華道教室垂蜜流



